

**令和元年度（第1回）
福岡市総合図書館運営審議会**

日時：令和元年9月27日（金）

午前10時00分～11時30分

場所：福岡市総合図書館 第2会議室

〔次第〕

1 開会

館長挨拶

2 議事

議題 平成30年度事業報告について

3 報告事項

報告1 平成30年度福岡市総合図書館の運営に関する評価について

（福岡市総合図書館新ビジョン推進に関する点検評価会議の報告）

報告2 福岡市総合図書館新ビジョン前期事業計画実施報告

4 閉会

平成30年度事業報告について

I 利用状況

図書館全体	・ ・ ・ ・ ・	1
図書館資料部門	・ ・ ・ ・ ・	2
文書資料部門	・ ・ ・ ・ ・	10
映像資料部門	・ ・ ・ ・ ・	11

II 事業概要

図書館全体	・ ・ ・ ・ ・	13
図書館資料部門	・ ・ ・ ・ ・	16
文書資料部門	・ ・ ・ ・ ・	18
映像資料部門	・ ・ ・ ・ ・	21

I 利用状況

図書館全体

○館別開館日数

開館日数について、総合図書館は前年度と同日だが、分館は、図書整理期間を短縮したため増加した。博多図書館と西部図書館は建物の点検等が入ったため他の分館より少ない。

(単位：日)

区 分	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 28 年度
総合 図書館	290	290	289
東 図書館	341	339	277 ※1
和白 図書館	293	289	288
博多 図書館	291	289	288
博多南図書館	293	289	288
中央 図書館	293	289	288
南 図書館	293	289	288
城南 図書館	293	289	288
早良 図書館	293	289	288
西 図書館	293	289	288
西部 図書館	292	289	288

※1 東 図書館：移転開館のため平成 28 年 2 月 1 日～6 月 3 日は長期臨時休館

○総合図書館及び分館の入館者数

区 分	平成 30 年度	平成 29 年度
総合 図書館	850 千人	892 千人
東 図書館	286 千人	—
和白 図書館	118 千人	—
博多 図書館	75 千人	—
博多南図書館	87 千人	—
中央 図書館	140 千人	—
南 図書館	134 千人	—
城南 図書館	173 千人	—
早良 図書館	110 千人	—
西 図書館	147 千人	—
西部 図書館	129 千人	—

*平成 30 年度の分館入館者数は、計測機器の調整を行ったことから平成 30 年 8 月～平成 31 年 3 月の 8 ヶ月間の計測人数の概算を表示しています。

図書資料部門

1 個人貸出

○新規登録者数

総合図書館と分館とアミカスを合わせた一日平均の新規登録者数は、前年度と比較して6.7%の減となっている。

(単位：人)

区 分	平成 30 年度		平成 29 年度		平成 28 年度	
	年度計	一日平均	年度計	一日平均	年度計	一日平均
総合図書館	8,448	29	9,938	34	10,125	35
分 館	15,823	53	15,831	54	23,244	81
アミカス	441	1	438	1	477	1
合 計	24,712	83	26,207	89	33,846	117

*科学館では、新規登録は行っていない。

○貸出利用者数

総合図書館と分館とアミカス・科学館を合わせた一日平均の貸出利用者数は、前年度と比較してほぼ横ばいとなっている。

(単位：人)

区 分	平成 30 年度		平成 29 年度		平成 28 年度	
	年度計	一日平均	年度計	一日平均	年度計	一日平均
総合図書館	330,387	1,139	343,109	1,183	361,641	1,251
分 館	827,870	2,783	821,386	2,794	829,515	2,891
アミカス・科学館	56,145	198	46,801	165	42,641	132
合 計	1,214,402	4,120	1,211,296	4,142	1,233,797	4,274

*少年科学文化会館が平成 27 年度 3 月末に閉館し、科学館が平成 29 年 10 月に開館した。

○貸出冊数

総合図書館と分館アミカス・科学館を合わせた一日平均の貸出冊数は、前年度と比較して1.2%の減となっている。

(単位：冊)

区 分	平成 30 年度		平成 29 年度		平成 28 年度	
	年度計	一日平均	年度計	一日平均	年度計	一日平均
総合図書館	1,242,075	4,283	1,304,095	4,497	1,375,600	4,760
分 館	2,739,367	9,208	2,756,314	9,375	2,800,989	9,763
アミカス・科学館	127,531	449	106,637	376	97,514	301
合 計	4,108,973	13,940	4,167,046	14,112	4,274,103	14,824

*少年科学文化会館が平成 27 年度 3 月末に閉館し、科学館が平成 29 年 10 月に開館した。

○自動貸出機・自動返却機の利用状況

自動貸出機の利用状況は、前年度と比較して1.0%の減、自動返却機の利用状況は、1.0%の増となっている。

(単位：冊／%)

区 分	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 28 年度
自動貸出機 利用冊数	1,976,379 / 48.1%	2,047,383 / 49.1%	2,123,007 / 49.7%
自動返却機 利用冊数	1,887,973 / 47.5%	1,889,804 / 46.5%	1,827,827 / 43.9%

○予約件数

予約件数は、前年度と比較してほぼ横ばいとなっている。

そのうちインターネットによる予約は688,129件で、予約件数全体の78.0%となっている。

(単位：件／%)

区 分	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 28 年度
インターネット	688,129 / 78.0%	650,990 / 77.3%	645,195 / 76.5%
館内検索機	83,301 / 9.5%	83,327 / 9.9%	87,877 / 10.4%
窓口・電話受付	110,476 / 12.5%	108,327 / 12.8%	110,328 / 13.1%
合 計	881,906 /100.0%	842,684 /100.0%	843,400 /100.0%

※平成19年10月からインターネット予約の開始

○図書館以外に設置している図書返却ポスト及び返却拠点の利用状況

利用者の利便性の向上を図るため、図書館外への図書返却ポスト及び返却拠点の設置を進めており、平成30年度は13箇所で行った。

(単位：冊)

区 分	平成 30 年度		平成 29 年度		平成 28 年度	
	合 計	一日平均	合 計	一日平均	合 計	一日平均
地下鉄博多駅	45,461	126	46,315	128	46,777	130
地下鉄別府駅	20,918	71	20,816	85	22,057	91
情報プラザ	38,214	106	35,645	100	36,668	102
入部出張所	9,636	26	10,817	30	10,219	28
西鉄薬院駅	4,371	24	7,571	35	13,926	39
地下鉄西新駅	16,539	57	17,319	59	18,089	62
福岡県立図書館	5,874	21	6,157	21	7,252	25
木の葉モール橋本	65,169	179	64,249	177	63,752	175
ふくふくプラザ	14,373	42	13,117	38	9,333	27
九州がんセンター	6,216	17	4,928	14	4,019	12
合 計	226,771		226,934		232,092	

※西鉄薬院駅は平成 29 年 10 月 31 日をもって閉店，平成 30 年 7 月 2 日より再開

※九州がんセンターは，平成 28 年 4 月 1 日取り扱い開始

※その他，福岡市男女共同参画推進センター（アミカス）図書室，公益財団法人博多駅地区土地区画整理記念会館図書室，福岡市科学館の 3 か所においても，返却受付を行っている。

○「有料宅配サービス」の利用状況

自宅等で予約した図書の受け取りができる「有料宅配サービス」については，前年度に比べ 24.5%の減であった。

(単位：冊)

区 分	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 28 年度
利用冊数	77	102	134

○福岡都市圏図書館の広域利用

平成 13 年度から福岡都市圏広域行政推進協議会の共同事業として，都市圏 17 市町 33 図書館では広域利用を行っている。

(単位：冊)

区 分	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 28 年度
福岡市の図書館における 福岡市民の貸出冊数	3,982,597	4,034,471	4,134,978
他市町の図書館における 福岡市民の貸出冊数	673,375	671,544	688,659
都市圏 33 図書館全体の 貸出冊数	11,292,686	11,356,782	11,615,015

*福岡市の図書館には，アミカス図書室を含む。

○相互貸借利用状況

福岡県内外の公共図書館等と貸借を行い，図書資料の提供を行っている。

(単位：冊)

区 分	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 28 年度
借 入	9,417	8,414	9,052
貸 出	5,026	5,266	5,829
合 計	14,443	13,680	14,881

○大学図書館とのネットワーク

平成 31 年度 4 月 1 日現在，9 大学 13 図書館と協定を締結し，専門者や学術書等の資料の提供を行っている。

(単位：冊)

区 分	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 28 年度
借 受	232	188	275
貸 出	231	143	179
合 計	463	331	454

○議会図書室との連携

平成27年2月から、市議会議員等の調査・研究を支援するため、議会図書室へ図書資料の貸出を行っている。

(単位：件，冊)

区 分	平成30年度	平成29年度	平成28年度
利用件数	12	24	33
貸出冊数	16	38	45

2 団体貸出

○団体貸出登録状況

団体貸出では、登録団体（公民館、留守家庭子ども会、病院や高齢者施設など）数は年々増加している。

(単位：団体，人)

区 分	平成30年度 (平成31年3月31日)	平成29年度 (平成30年3月31日)	平成28年度 (平成29年3月31日)
登録団体数	396	386	375
団体会員数	85,660	83,791	80,874

○団体貸出状況（配本冊数）

(単位：冊)

区 分	平成30年度	平成29年度	平成28年度
児童書	180,658	189,062	197,940
一般書	31,848	34,178	34,810
合 計	212,506	223,240	232,750

3 調査相談

○図書資料の調査相談件数

レファレンス等の一日平均の調査相談件数は、前年度と比較して1.8%増となった。

(単位：件)

区 分	平成30年度		平成29年度		平成28年度	
	年度計	一日平均	年度計	一日平均	年度計	一日平均
レファレンス 利用案内	102,439	345	97,201	331	102,370	357
	96,226	324	95,818	326	93,894	327
合 計	198,665	669	193,019	657	196,264	684

○国立国会図書館のレファレンス協同データベース登録状況

平成 25 年 5 月から開始した国立国会図書館レファレンス協同データベースへの当館のレファレンス事例登録状況は、前年度比 11.0%増、事例被参照数は、2.4%減となっている。

(単位：件)

区 分	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 28 年度
事例登録数	113	100	70
事例被参照数	129,949	133,102	97,612

※全国の図書館等がレファレンス事例を登録し、図書館員や一般利用者に提供するシステム

○国立国会図書館デジタル化資料送信サービス利用状況

国立国会図書館がデジタル化した資料のうち、絶版等の理由で入手困難な資料を対象に提供を行った。

区 分	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 28 年度
利用者数 (人)	160	140	105
複写タイトル数 (件)	515	278	212
複写枚数 (枚)	2,632	3,280	2,524

○利用者用インターネット情報検索端末サービス

総合図書館 2 階のパソコンルームにインターネットが利用できるパソコンを 5 台設置し、利用者自身がインターネットで情報を検索出来るサービスを実施した。

(単位：人)

区 分	平成 30 年度		平成 29 年度		平成 28 年度	
	年度計	一日平均	年度計	一日平均	年度計	一日平均
利用者数	7,095	25	7,528	26	8,070	28

○ホームページの複写サービス

インターネット情報を利用者の調査研究に役立てるため、同資料を収集し、複写サービスを提供した。

(単位：件)

区 分	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 28 年度
利用件数	27	22	32

4 読書行事

○概要

総合図書館では、子ども向けのおはなし会や体験講座、大人向けの講座など、様々な幅広い層に向けイベントを、分館においては、地域の特色を生かしたテーマや独自の視点による多様なイベントを実施し、1,067回の開催で延べ24,482人の参加を得た。

(1) 総合図書館

○読書活動ボランティア講座

地域における子どもの読書活動を推進するため、ボランティア養成講座として読み聞かせ、ストーリーテリングの2コースを実施した。

平成28年度より経験者コースに、受講後一定期間(約3か月半)が経過した後、受講者のフォローアップを目的とした講座を追加実施した。

(単位：回，人)

区 分	平成30年度		平成29年度		平成28年度	
	回数	延べ参加人数	回数	延べ参加人数	回数	延べ参加人数
絵本の読み聞かせコース(初心者コース)	8	330	8	382	8	327
ストーリーテリングコース(経験者コース)	7	161	7	176	7	265
合 計	15	491	15	558	15	592

○おはなし会

幼児や小学生・保護者を対象に読み聞かせや紙芝居、わらべうたなどを実施した。また、大人を対象としたストーリーテリングを新たに実施した。

(単位：回，人)

区 分	平成30年度		平成29年度		平成28年度	
	回数	延べ参加人数	回数	延べ参加人数	回数	延べ参加人数
おはなし会	98	3,810	99	3,437	96	3,157
こぐまちゃんおはなし会	12	745	12	765	12	865
こどもの日特別おはなし会	1	131	1	148	1	317
一日おはなし会	1	143	1	207	1	180
クリスマス特別おはなし会	1	247	1	284	1	308
大人のためのおはなし会(ストーリーテリングのタブ)	4	123	4	290	—	—
合 計	117	5,199	118	5,131	111	4,827

○布の絵本講習会

手づくり布の絵本作成の講習会を実施した。

(単位：回，人)

区 分	平成 30 年度		平成 29 年度		平成 28 年度	
	回数	延べ参加人数	回数	延べ参加人数	回数	延べ参加人数
布の絵本講習会	12	714	12	470	6	242

○小学生読書リーダー養成講座

小学5～6年生を対象に、読書の意義、図書館の本の探し方、絵本の読み聞かせ等の講習を行い、学校図書館活動の実践での活用を図ることを目的に養成講座を実施した。

(単位：回，人)

区 分	平成 30 年度		平成 29 年度		平成 28 年度	
	回数	認定者数	回数	認定者数	回数	認定者数
小学生読書 リーダー養成講座	3	231	3	263	2	229

○夏休み図書館の達人講座

小学4～6年生を対象に、夏休みの自由研究等にも役立つ図書館を利用した調べ学習の方法を学ぶことで、図書館の利用に関する基本的知識の習得を図ることを目的に講座を実施した。

(単位：回，人)

区 分	平成 30 年度		平成 29 年度		平成 28 年度	
	回数	延べ参加人数	回数	延べ参加人数	回数	延べ参加人数
夏休み図書館 の達人講座	2	22	2	16	2	31

○福岡市ブックスタート事業

乳幼児の4か月児健診の機会に赤ちゃんに絵本を手渡すブックスタート事業で、絵本の読み聞かせの楽しみ方や赤ちゃんとの遊び方等を説明、実演するボランティアの研修を実施した。

(単位：回，人)

区 分	平成 30 年度		平成 29 年度		平成 28 年度	
	回数	延べ参加人数	回数	延べ参加人数	回数	延べ参加人数
「絵本ふれあい タイム」 ボランティア研修	1	71	1	66	1	51

○読書ノートの配布

読んだ本の感想や読みたい本等をメモする読書ノートを配布し、子どもの読書を支援した。

(単位：回，人)

区 分	平成 30 年度		平成 29 年度		平成 28 年度	
	回数	延べ配布人数	回数	延べ配布人数	回数	延べ配布人数
読書ノートの配布	14	384	27	557	—	—

(2) 分館

○おはなし会 (分館合計)

(単位：回，人)

区 分	平成 30 年度		平成 29 年度		平成 28 年度	
	回数	延べ参加人数	回数	延べ参加人数	回数	延べ参加人数
どようおはなし会	484	7,288	487	7,393	496	8,466
赤ちゃんおはなし会	175	5,921	182	5,571	159	5,529
※その他のおはなし会	41	1,300	37	1,328	34	1,388
合 計	700	14,509	706	14,292	689	15,383

※「どようおはなし会」「赤ちゃんおはなし会」以外の分館のおはなし会は、様々な名称があるため、「その他のおはなし会」として集約している。

5 学校図書館支援センター

○学校図書館支援センター

各学校が、学校図書館を効果的に運用できるよう、平成 26 年 9 月に、総合図書館内に学校図書館支援センター準備室を設置した。

平成 27 年 4 月から本格稼働し、「情報」「ひと」「もの」の観点から支援を行った。

区 分	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 28 年度
相談業務 (件)	136	108	103
要請訪問 (回)	36	5	3
計画訪問 (回)	14	106	68
登録校数 (校)	小学校 127 中学校 35	小学校 122 中学校 32	小学校 59 中学校 6
貸出冊数 (冊)	小学校 5,641 中学校 497	小学校 5,768 中学校 260	小学校 2,566 中学校 229

※平成 27 年 4 月～ホームページを開設し、情報を配信中

※平成 28 年 9 月～中学校へ学習支援用図書の出借を開始

文書資料部門

○文書資料の調査相談件数

文書資料部門では、利用案内件数はほぼ横ばいだが、一日平均のレファレンス件数は、前年度と比較して若干減少している。

(単位：件)

区 分	平成 30 年度		平成 29 年度		平成 28 年度	
	年 度 計	一日平均	年 度 計	一日平均	年 度 計	一日平均
レファレンス	4,915	17	5,061	17	5,485	19
利用案内	2,953	10	3,780	13	3,665	13
合 計	7,868	27	8,841	30	9,150	32

<主な普及活動>

○歴史的公文書の展示

歴史的公文書に対する市民の理解と関心を深めてもらうための展示を行った。

(単位：回，人)

区 分	平成 30 年度		平成 29 年度		平成 28 年度	
	回数	延べ来場者数	回数	延べ来場者数	回数	延べ来場者数
歴史的公文書の展示	1	715	1	592	2	5,364

○古文書学講座

古文書を初めて読もうとする市民を対象に、古文書学の基礎を学ぶ講座を実施した。

(単位：回，人)

区 分	平成 30 年度		平成 29 年度		平成 28 年度	
	回数	延べ参加人数	回数	延べ参加人数	回数	延べ参加人数
古文書学講座	4	183	4	167	4	179

○文学館事業（企画展示）

福岡ゆかりの文学者や文学作品、福岡での様々な文学活動を紹介する展示を行った。

(単位：回，人)

区 分	平成 30 年度		平成 29 年度		平成 28 年度	
	回数	来場者数	回数	来場者数	回数	来場者数
企画展	1	764	1	4,329	1	2,643

○文学館事業（講座）

福岡ゆかりの文学者や文学作品、福岡での様々な文学活動に関する講座を実施した。

（単位：回，人）

区 分	平成 30 年度		平成 29 年度		平成 28 年度	
	回数	延べ参加人数	回数	延べ参加人数	回数	延べ参加人数
企画展関連講座	1	24	2	162	2	88
読書講座	0	0	2	60	3	88
市民公開講座	1	50	5	184	4	179
赤煉瓦夜話	5	180	5	327	5	219
その他	4	14	2	16	1	43
合 計	11	268	16	749	15	617

映像資料部門

○入場者数

映像ホール・シネラの一回平均の入場者数は、前年度と比較して9.8%増加して、ミニシアターの一回平均の入場者数は、前年度と比較して4.1%増加している

（単位：人）

区 分	平成 30 年度		平成 29 年度		平成 28 年度	
	年度計	一回平均	年度計	一回平均	年度計	一回平均
映像ホール・シネラ	28,368	67	26,901	61	28,558	66
ミニシアター	7,284	25	6,938	24	6,154	21
合 計	35,652	92	33,839	85	34,712	87

○貸出数

ビデオ・CD等の一日平均の貸出数は、前年度と比較して8.5%減少している。

（単位：点）

区 分	平成 30 年度		平成 29 年度		平成 28 年度	
	年度計	一日平均	年度計	一日平均	年度計	一日平均
ビデオ等貸出	7,974	27	9,666	33	11,404	39
CD等貸出	38,334	130	40,934	141	42,925	149
合 計	46,308	157	50,600	174	54,329	188

○映像ホール・シネラ上映実施状況

映像ホール・シネラの運営等については、図書館と映像ホール・シネラ実行委員会が共催して行っている。

- ・通常上映事業：図書館で収集しているアジア映画や日本映画の収蔵作品を上映する。
毎週水曜日～日曜日（1日1回～3回上映）
- ・特別企画上映事業：他の映像関係団体等との共催による企画や、福岡で上映される機会の少ない映画を特集的に上映する。
- ・貸館上映事業：映像文化の振興・普及のため自主上映（非営利に限る）を行う希望者に、月末週の土曜日と日曜日のみ、映像ホール・シネラを有料貸出している。

（単位：回，人）

区 分	平成 30 年度		平成 29 年度		平成 28 年度	
	回数	延べ入場者数	回数	延べ入場者数	回数	延べ入場者数
通常上映	186	10,775	127	6,147	242	12,498
特別企画上映 (イベント込)	218	17,037	298	19,773	190	15,338
貸館上映	17	556	15	981	13	722
合 計	421	28,368	440	26,901	445	28,558

○講演会実施状況

特別企画上映事業に関連する各種講演会を実施した。

（単位：回，人）

区 分	平成 30 年度		平成 29 年度		平成 28 年度	
	回数	延べ参加人数	回数	延べ参加人数	回数	延べ参加人数
講演会	2	93	3	288	4	349

○展示事業

区分	平成 30 年度
展示事業	①展示名：アジアフォーカス・福岡国際映画祭 2018 展 「アジアフォーカス・福岡国際映画祭上映作品ポスター集」 開催期間：9月11日～9月24日 ②展示名：アジア映画収蔵資料コレクション展 2018 「インド映画ポスター集」 開催期間：12月1日～12月24日

○館外上映事業

区分	平成 30 年度
館外上映事業	事業名：こんにちは！シネラです。 開催日：平成30年12月9日（日） 総合図書館が収蔵しているアジア映画の作品を、図書館以外の市の施設で上映し、フィルムの有効活用を図った。 上映作品：「浄土アニャン」（2011年，韓国），「クルドサック」（1998年，インドネシア） 会場：アジア美術館 あじびホール 入場者：55名

II 事業概要

図書館全体

1 分館整備事業

事業名	内容	実施
新たな分館の検討	新たな分館を併設する「早良南地域交流センター整備事業」について所管局と図書館分館の仕様等について協議した。	関係部局(市民局等)と継続協議

2 快適な空間づくり事業

事業名	内容	実施
やすらぎと交流の場づくり	平成28年4月から総合図書館エントランスホールに「語らいの場」を設置するとともに、季節に応じたイベントを実施した。	合計約30のイベントを実施

3 効率的で効果的な図書館運営

事業名	内容	実施
指定管理者制度の導入	総合図書館(建物管理等)及び東図書館(選書を除く図書館サービス等)について、指定管理者制度を導入しモニタリングを4回、選定・評価委員会を開催して各指定管理業務の評価を行った。	総合図書館 平成28年4月1日～ 東図書館 平成28年6月4日～

4 財源確保に係る事業

事業名	内容	実施
ふくおか応援寄付	図書購入への活用を目的に、「ふくおか応援寄付制度」において寄付の募集を行った。	平成30年度実績 150,000円
駐車場有料開放	総合図書館駐車場を事業者に貸付け、閉館時間帯等に有料開放することで、財源確保に努めた。	平成30年度実績 4,986,483円

5 利用時間の拡大

事業名	内 容	実 施
開館時間、休館日の見直し	平成28年度から総合図書館について開館時間の延長，東図書館について開館日・開館時間の拡大を行った。 総合図書館：10：00～20：00（1時間延長） 東図書館：9：00～20：00（3時間延長），休館日：最終月曜日	総合図書館 平成28年4月1日～ 東図書館 平成28年6月4日～

6 市民との共働事業

事業名	内 容	実 施
図書館ボランティアとの共働	市民活動の場を提供するため，余暇（月2回，4時間以上）を活用して活動できる市民ボランティアを受け入れた。	68名 総活動時間 2,856時間
インターンシップ生の受入	九州インターンシップ推進協議会等からの受入れ要請に対して，受け入れを行った（平成28年度から）。	2名受入

7 研修・危機管理対策

事業名	内 容	実 施
基礎研修	接遇・クレーム対応，ユニバーサルサービス，業務改善及び防災等に関する基礎研修を実施した。	平成30年度実績 4回実施
専門研修	図書館職員として専門知識や技術向上を目指す研修に職員を派遣した。	平成30年度実績 派遣回数12回 参加職員延42名
	図書館地区別研修（九州・沖縄）を主催した。	平成31年1月 16日～18日 参加職員56名
防災避難訓練	火災・地震を想定した避難誘導訓練及び救命器具等（AED・心肺蘇生法・水消火器）操作訓練を実施した。	平成30年2月28日 参加職員100名

8 見学・視察等受入事業

事業名	内 容	実 施
見学・視察受入	小学校，中学校，高校，各種学校他，自治体，図書館関連機関等からの受け入れ要請に対し，受け入れを行った。	小中高，大学 延32校 1658名 その他 25件 442名
バックヤードツアー	見学視察が比較的少なくなる11月から翌年2月にかけて，一般および親子を対象とする図書館の裏側を紹介するツアーを実施した。（一般4回，親子2回）	一般 51名 親子 4組9名
職 場 体 験	中学校からの受け入れ要請に対し，受け入れを行った。	6校 16人

9 情報発信事業

事業名	内 容	実 施
メールマガジン・SNSの活用	FacebookやTwitter，LINE等による情報発信，メールマガジンの配信（月1回）を開始した。	Facebook等 平成28年5月30日～ メールマガジン 平成28年6月～
ホームページの改修	総合図書館ホームページをより見やすく，利用しやすくするため，レイアウトや操作性の改善に取り組んだ。	随時実施

10 新ビジョンの推進

事業名	内 容	実 施
新ビジョンの進行管理と評価	福岡市総合図書館新ビジョンの推進に向けて，平成29年度の実施状況についての評価を行い，その内容を公表した。また，令和元年度から令和5年度までの新ビジョンの後期事業計画を策定し，その内容を公表した。	平成30年8月31日 点検評価会議 を開催

図書資料部門

1 図書資料の収集、整理・保存

○収集資料の充実

事業名	内 容	実 施
資料収集の充実	公共図書館としての役割を発揮するため、図書資料の収集方針の見直しを行い、新たに「福岡市総合図書館図書資料部門収集方針」を策定した。分館においては、平成28年5月より、地域の実情に合わせて分館毎の収集方針を作成し、毎年度更新することとした。	平成27年 10月1日 から施行

○図書資料の所蔵状況

区 分		平成 30 年度	平成 29 年度	平成 28 年度
図 書		1,978,558 冊	1,956,063 冊	1,950,274 冊
逐次 刊行物	雑誌（寄贈を含む）	1,775 種	1,834 種	1,785 種
	新聞（寄贈を含む）	207 種	214 種	207 種
	法令集追録	6 種	6 種	6 種
	国会議事録他	2 種	2 種	2 種
マイクロフィルム		24,256 巻	24,208 巻	24,112 巻
CD-ROM, DVD-ROM		—	11 種	12 種
オンラインデータベース		7 種	7 種	8 種

※ 図書の冊数については年度末現在で、その他については翌年度4月1日現在での延べ数である。

2 レファレンスサービスの充実

事業名	内 容	実 施
電子メールによるレファレンスサービス	電子メールによるレファレンスサービスを開始した。	平成28年 8月から開始
情報提供の充実	①ビジネス支援として、平成28年4月より、中小企業診断士による「起業・経営相談会」を開催した。 ②医療情報の提供として「九州がんセンター講演会」をシリーズ化し実施した。	①平成30年度 72回開催 ②平成30年度 2回開催、 計86名参加

3 各種図書館間協力ネットワークの構築

事業名	内 容	実 施
国立国会図書館 総合目録ネット ワークへの参加	公共図書館における資料の共有化，書誌サービスの標準化と効率化を図るため，ネットワークに参加し，当館書誌データの提供や，国立国会図書館及び参加図書館の書誌データ検索を実施した。 (参加館1,146館，うち書誌データ提供館67館)	平成12年 3月から参加 平成14年 7月から当館 書誌データの 提供開始

4 読書普及活動

事業名	内 容	実 施
企画展示	各部門及び各分館において，テーマを設定し，テーマに沿った図書の展示やブックリスト配布などを行った。 なお，10月は図書館マンスとし，全館統一のテーマを定め，各部門及び各分館においてサブテーマを設定し，図書の展示等を行った。	毎月

5 モデル児童図書リストの配布

事業名	内 容	実 施
モデル児童図書 リストの配布	幼児から小学5・6年生向けの図書を掲載したモデル児童図書リストの配付や掲載図書の展示，貸出を行った。	総合図書館 及び分館で 配布

6 地域読書活動への支援

事業名	内 容	実 施
公民館等の 読書活動への支援	毎年，別々に開催していた総合図書館が主催する「地域文庫交流会」と，教育委員会生涯学習課が主催する「公民館文庫活動実践報告会・交流会」について，地域のニーズを把握し，実情に合った支援を行うため，団体貸出未利用の公民館等の現状や要望等の収集，団体貸出の新規利用に向けた情報提供を行うとともに，地域文庫ボランティア相互の情報交換・交流の機会として，平成28年度より合同で開催することとした。	平成31年2月6日 「地域文庫交流会」及び「公民館文庫活動実践報告会・交流会」を合同開催 参加：地域文庫 9団体・12名 公民館 14館・25名

文書資料部門

1 文書資料の収集、整理・保存

○公文書資料の収集状況

平成30年度の公文書資料収集は、完結後30年経過した永年保存文書463冊と、保存期間が満了した有期限保存文書のうち歴史的文化的価値があると認められる62冊を収集した。

(単位：冊)

区 分	平成30年度	平成29年度	平成28年度
公文書資料	525	429	431

○行政資料の収集状況

平成30年度の行政資料収集は、主に本市行政各部署が発行する刊行物等を中心に、1,104冊を収集した。

(単位：冊)

区 分	平成30年度	平成29年度	平成28年度
行政資料	1,104	881	1,029

○古文書資料の収集状況

平成30年度の古文書資料収集は、近藤郁隆収集資料他341点の寄贈を受け、旧秋月藩士岩津家文書他109点を購入した。また、東長寺文書(三)1,957点をマイクロフィルム収集として受け入れた。

(単位：点)

区 分	平成30年度	平成29年度	平成28年度
古文書資料	2,406	2,144	2,019

○郷土資料の収集状況

平成30年度の郷土資料収集は、福岡市を中心とする県内の各分野にわたる図書等666冊を収集した。

(単位：冊)

区 分	平成30年度	平成29年度	平成28年度
郷土資料	666	902	815

○文学資料の収集状況

平成30年度の文学資料収集は、福岡ゆかりの作家等に関する資料として、82点を購入した。

(単位：点)

区 分	平成30年度	平成29年度	平成28年度
文学資料	82	190	1,053

○文書資料の所蔵状況

文書資料の総数は、年々増加傾向にある。

(単位：点)

区 分	平成 30 年度	平成 29 年度	平成 28 年度
公文書資料(冊)	29,124	29,419	29,062
行政資料(冊)	49,014	47,913	47,125
古文書資料(点)	78,296	75,890	73,746
郷土資料(冊)	102,138	101,433	100,531
文学資料(点)	23,857	23,775	23,585
合 計	282,429	278,430	274,049

2 公文書資料目録の作成

事 業 名	内 容	実 施
公文書資料目録 平成30年度版 (PDF)の作成	平成 29 年度までに収集・整理した公文書資料の簿冊及び件名目録 (PDF) を作成し、ホームページに掲載した。	平成31年 3月作成

3 古文書資料目録の発行

事 業 名	内 容	実 施
古文書資料目録 24の発行	平成 30 年度までに収集した古文書資料の検索用目録を作成・発行した。	平成31年 3月発行

4 郷土資料展示

事 業 名	内 容	実 施
郷土資料展示	郷土に関する市民の理解と関心を深めてもらうため、レファレンスカウンター4前の展示スペースにて、様々なテーマで郷土福岡の歴史などを紹介し、読書案内のための展示を行った。	通年で実施

5 文学館事業 (常設展示)

事 業 名	内 容	実 施
常設展示	福岡ゆかりの文学者や文学作品、福岡での様々な文学活動を紹介する展示を行った。 会場：福岡市総合図書館 1階ギャラリー 赤煉瓦文化館 1階展示室	通年で実施 (企画展示期間及び 展示準備期間を除く)

6 委員会等

事業名	内 容	実 施
福岡市総合図書館 文書資料収集審査 委員会	所管する文書資料収集の適正化を図るため、 8名の委員により1回開催した。	平成31年 3月22日開催
福岡市文学館資料 委員会	福岡市文学館資料の充実と有効活用を図る ため、8名の委員により1回開催した。	平成31年 2月28日開催
福岡市文学振興 事業実行委員会	文学振興事業の企画と円滑な実施運営を 図るため、7名の委員により2回開催した。	平成30年5月25日 平成31年3月26日 開催

映像資料部門

1 映像資料等の収集、整理・保存状況

○映像フィルム収集状況

アジア映画を中心とした国内外の優れた映像資料を収集し、貴重な映像文化財として長期保存を行っており、平成30年度の映画フィルム収集は、購入4本、寄贈1本の合計5本であった。

(単位：本)

区 分	平成30年度	平成29年度	平成28年度
購 入	4	5	4
寄 贈	1	36	441
合 計	5	41	445

○映画フィルム所蔵状況

(単位：本)

区 分	平成30年度	平成29年度	平成28年度
映画フィルム	3,292	3,287	3,246
内 購 入 分	1,024	1,020	1,015
内 寄 贈 分	2,268	2,267	2,231

○ビデオ等所蔵状況

(単位：点)

区 分	平成30年度	平成29年度	平成28年度
ビデオ/DVD	6,200	6,200	6,200
CD/カセット	14,020	13,500	13,200
合 計	20,220	19,700	19,400

2 委員会等

事 業 名	内 容	実 施
福岡市総合図書館 映像資料収集 委員会	映像資料の整備・拡充を図るため、東京と福岡で各4名の委員により各1回開催した。	平成30年5月17日 平成30年5月23日 開催
福岡市総合図書館 映像ホール・シネラ 実行委員会	福岡市総合図書館映像ホール・シネラでの上映等を開催し、その運営を円滑に行うため、8名の委員により1回開催した。	平成30年 4月26日開催

平成 30 年度 刊行物等一覧

(1) 刊行物

名 称	所管課	発行月	サイズ	ページ	部数	Web 閲覧
図書館要覧 (平成 30 年度版)	運営課	8 月	A 4	70	350	○
こどもとしょかんニュース	図書サービス課	年 6 回	A 3	1	各 1,400	○
モデル児童図書リスト (幼児, 小学 1・2 年生, 小学 3・4 年生, 小学 5・6 年生)	図書サービス課	4 月	A 4	2	4,500	○
レファレンスだより	図書サービス課	毎月	A 4	4	300	○
クンドルニュース	図書サービス課	奇数月	A 4	1	600	○
福岡市文学館機関誌 「文学館倶楽部」	文学・文書課	10 月・3 月	A 4	12	各 4,800	—
「青春の光芒-矢山哲治と文芸雑 誌「こをろ」展図録	文学・文書課 (福岡市文学振興 事業実行委員 会)	11 月	A 5	96	1,000	有償販売
福岡市文学館選書 6 「久保猪之吉・より江作品集」	文学・文書課 (福岡市文学振興 事業実行委員会)	3 月	四六判	245	500	有償販売
平成 30 年度古文書資料目録 24	文学・文書課	3 月	A 4	181	450	有償販売
福岡市総合図書館研究紀要 第 19 号	文学・文書課	3 月	A 4	78	450	—
シネラニュース	映像資料課	毎月	A 4	4	8,000	○
よかたい通信	運営課 (よかたい図書館 共同事業体)	季刊	A 3	1	100	—
百道浜散策マップ	運営課 (よかたい図書館 共同事業体)	不定期	A 3	1	200	—

(2) インターネットホームページ

名 称	所管課	ア ド レ ス
福岡市総合図書館ホームページ	運営課	http://toshokan.city.fukuoka.lg.jp/
福岡市総合図書館うえぶシネラ	映像資料課	http://www.cinela.com/

平成 30 年度
福岡市総合図書館の運営に関する評価

令和元年 9 月
福岡市総合図書館

福岡市総合図書館新ビジョン推進に関する点検評価会議委員名簿

(五十音順)

	所属等
青沼 美撫子	福岡市総合図書館運営審議会委員 (本市の住民)
上村 篤子	福岡市総合図書館運営審議会委員 (社会教育関係)
岡野 秀之	公益財団法人九州経済調査協会 事業開発部長兼 BIZCOLI 館長
高橋 昇 (委員長)	福岡市総合図書館運営審議会委員 (学識経験者)
西村 早苗	福岡市総合図書館運営審議会委員 (家庭教育関係)

平成30年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(総括)

福岡市総合図書館新ビジョン基本理念	
市民がくつろぎ、本や人と楽しくふれあえる新たな学び・情報・交流の拠点となる図書館	
利用者の高度化・多様化するニーズに対応できる資料・情報を提供する生涯学習施設として、また、内部空間だけでなく外部空間も含めて、快適な空間を最大限に活用することにより、これまで図書館を利用したことのない人なども集う場を創出し、多くの市民がくつろぎ、楽しさを共有できる新たな情報・交流の拠点となる図書館を目指します。	

成果指標					
成果指標	平成26年度末	平成27年度末	平成28年度末	平成29年度末	平成30年度末
図書館利用者における 図書館サービスの満足度 【平成30年度:85%】	80.1%	84.2% (+4.1)	85.9% (+1.7)	87.2% (+1.3)	88.9% (+1.7)
※図書館サービスに関する調査3項目の満足度のうち、最も低い値を成果とした ※()は前年度からの増減					

目標数値					
目標数値	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
①入館者数 【平成30年度:5,500千人】	—	—	—	—	—
②個人貸出冊数 【平成30年度:5,200千冊】	4,378,475冊	4,311,916冊 [-66,559] [-1.5%]	4,274,103冊 [-37,813] [-0.9%]	4,167,046冊 [-107,057] [-2.5%]	4,108,973冊 [-58,073] [-1.4%]
③貸出利用者数 【平成30年度:1,400千人】	1,227,351人	1,217,508人 [-9,843] [-0.8%]	1,233,797人 [+16,289] [+1.3%]	1,211,296人 [-22,501] [-1.8%]	1,214,402人 [+3,106] [+0.3%]
④新規登録者数 【平成30年度: 45千人】	25,971人	25,337人 [-634] [-2.4%]	33,846人 [+8,509] [+33.6%]	26,207人 [-7,639] [-22.6%]	24,712人 [-1,495] [-5.7%]
※入館者数については、平成30年度に装置の不具合が判明したため過去の数値も非表示。 ※[]は前年度からの増減。					

内部評価	事業別評価	
<評価> 成果指標は、利用者満足度調査3項目のうち最も低い「開館時間および休館日」についての88.9%を、これまでと同様に「図書館利用者における図書館サービスの満足度」としたが、前年度から1.7ポイント上がっている。 目標数値のうち、貸出利用者数については増加しているが、個人貸出冊数及び新規登録者数については減少している。	A評価	17事業
	B評価	11事業
	C評価	2事業
	D評価	—
<対応> 平成30年度に令和元年度から令和5年度までを後期として事業計画を策定した。前期事業計画で取り組みが十分でなかった項目を中心に見直しを行っており、目指す図書館像の実現に向けて計画的に事業を実施していく。		

外部評価

・限られた予算・人員で努力されて結果を出していることは評価できる。『①課題解決型図書館への更なる進化②「レファレンスだより」を活用して「調べたい事柄・テーマがある」を使い易く改編する。③分館の規模が小さく蔵書数が少ない。』ことを留意して運営することを望む。

・30項目のうち20項目がA評価であり総合的に高い評価ができる。その結果が満足度調査の高さ、88.9%にも表れていると感じる。弱い部分は、電子書籍やWi-Fi、デジタルデータ化などのIT環境であり、重点的に取り組む必要がある。

・数値目標としている「個人貸出冊数」と「新規登録者数」の減少が続いているが「貸出利用者数」は目標に届かないものの平成30年度で持ち直している。アンケート調査での満足度が4年連続上昇しており9割近くに達していることとあわせて考えると図書館の利用形態が「貸出」のみで評価できなくなっている可能性もある。

・入館者数の継続的なデータが出せない状況にあるが利用形態の把握には、入退館情報は重要である。リピート率、利用時間帯、滞在時間、イベント利用者のカウントなど企画やイベントも含めた効果検証ができる形で新しいカウントをスタートして、新たに積み重ねていってほしい。

・分館のWi-Fi環境の整備が遅れているため早急な対応を求める。

・休館日の見直しと利用時間の延長は分館ごとに実現に向けて進めていくことを望む。

・公的な図書館としての責務を果たしながら、身近でくつろげる本との楽しい出会いの場となることを期待する。継続して財源の確保、資料の充実、図書館に携わる人材の資質向上や研修などに取り組んでほしい。また、その利用拡大のための広報や魅力的なイベントの企画、施設のリニューアル、レイアウトの見直しなど課題は多いが、取組みの継続を望む。その為に幅広く市民の意見を吸い上げる努力をし検討願う。人口増が続いている福岡市、その図書館の利用が減少傾向にあるのは残念である。図書館をほとんど利用したことのない市民へのPRが更に求められる。未来を見据えれば子どもたちの利用促進が重要と考える。地域の小中学校、留守家庭子ども会、地域の子ども会などとの連携を深め支援を充実させることが望まれる。

事業別評価

委員①		委員②		委員③		委員④		委員⑤	
A評価	18	A評価	10	A評価	20	A評価	12	A評価	14
B評価	10	B評価	16	B評価	8	B評価	15	B評価	11
C評価	2	C評価	4	C評価	2	C評価	3	C評価	5
D評価	0	D評価	0	D評価	0	D評価	0	D評価	0

<評価の基準>

福岡市総合図書館新ビジョン事業計画の取組状況については、下記の基準により評価を行っている。

判定	評価内容
A	計画どおり取組み、内容も十分である。
B	ほぼ計画どおり取組んでいるが、少し不十分な点がある。
C	計画どおりには取組んでおらず、不十分である。
D	取組んでいない。

○福岡市総合図書館新ビジョン事業計画一覧表

	図書館像	項目	内容
1	誰もが楽しめる 魅力ある図書館	図書資料の貸出・ 返却拠点の新設	分館の新設
2			貸出・返却拠点等の新設
3		利用時間の拡大	開館時間, 休館日の見直し
4		図書館イベントの充実	図書館イベントの充実
5		快適な空間づくり	やすらぎと交流の場づくり
6			館内レイアウトの変更
7	さまざまな情報を求める 市民に応える図書館	図書館サービスの充実	資料収集の充実
8			レファレンス(相談)サービスの充実
9			情報提供の充実
10			ホームページの複写サービス
11			無線LAN環境の整備
12		地域読書活動への支援	団体貸出先の拡大
13			公民館等の読書活動への支援
14		市関連施設の図書室 の相互協力	議会図書室との連携
15			市施設の図書室との相互協力
16	子どもと本をつないで 豊かな心を育む図書館	子どもへの読書普及	モデル児童図書目録の配布
17			新一年生への貸出カードの付与
18			ヤングアダルト層(12歳~18歳)への広報活動の強化
19			読書活動ボランティア講座の強化
20	学校図書館への支援	学校図書館支援センターの設置	
21	総合図書館の特色を 生かした図書館	映像資料部門の強化	図書館外施設でのアジア映画上映事業
22			広報活動の強化
23		文書資料部門の強化	歴史的公文書のデジタルデータ化及びシステム化
24			古文書資料・郷土資料のデジタルデータ化
25			福岡市文学館の利用拡大
26	効率的で効果的な 図書館運営	図書館運営の強化	運営方法(民間活力の導入)の検討
27			図書館ボランティアとの共働の推進
28			職員の育成及び技術向上
29			施設の有効活用などによる財源確保
30		情報発信の推進	情報発信の推進

平成30年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	誰もが楽しめる魅力ある図書館	項目	図書資料の貸出・返却拠点の新設		
内容	分館の新設				
事業計画	地域交流センター等の整備検討に併せて、新たな分館の新設を検討します。				
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
平成 30 年 度					
計画	平成33年度の施設供用開始に向けて、図書館分館の開館準備業務及び運営業務に関する民間事業者の活用について引き続き検討していく。				
取組状況	2021年(令和3年)11月の早良南地域交流センターの供用開始に向けて、早良南図書館(仮称)の内部仕上りや施設配置等の協議を行うとともに運営方法について検討を進めた。				

内部評価 (平成30年度)	
早良南図書館(仮称)の令和3年度の供用開始に向けて、読書相談員の意見や東図書館の課題を踏まえながら具体的に準備を進めたためA評価とする。	A

外部評価 (平成30年度)	
<ul style="list-style-type: none"> ・図書館サービスを十分に受けられていない地域に新設される早良南図書館(仮称)の開館に向けて、努力検討している。 ・図書館利用の困難な地域に分館ができることは良いことであるがその地域の特性を考えると移動図書館の配備が求められる。しかし、そのことは計画に入っていない。又、司書が建築計画の作成時点で参加していないことも不安材料である。 ・スケジュールにあわせて着実に取り組んでほしい。 ・幅広く地域の利用者、おはなし会などを行う読書ボランティア、利用者と接する図書館職員から意見を聞く機会が必要。利用しやすく魅力ある図書館内のレイアウトにするためには、建物の設計段階から検証を行うことが不可欠である。 ・早良南図書館(仮称)の供用開始に向けて読書相談員の意見と地域の意見も反映させ東図書館の課題を踏まえながら準備を進めてほしい。 	A : 3 B : 2 C : 0 D : 0

前期事業計画(平成26年度～平成30年度)の総括
<p>地域交流センターの整備に併せた図書館分館の新設に時期を逸さず、取り組むことが出来た。協議を進める中で図書館の面積や場所等の確保に最大限努力してきた。今後は、東図書館の課題等を踏まえ検討する。</p>

平成30年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	誰もが楽しめる魅力ある図書館	項目	図書資料の貸出・返却拠点の新設		
内容	貸出・返却拠点等の新設				
事業計画	図書館サービスが行き届かない地域に対して、交通の便の良い公共施設などに図書の貸出・返却拠点の新設を推進し、図書館利用者の利便性の向上を図ります。				
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	検討、協議				
	◇設置		◇設置	◇設置	
平成30年度					
計画	引き続き、新たな貸出・返却拠点等の新設について、随時検討していく。				
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> 平成29年度に貸出・返却拠点として設置した福岡市科学館での実績等を検証した。また、新たな拠点の候補施設を抽出し、関連部署との協議や、新設を見込んだ物流経費等の確保に努めたが、十分な予算が確保できなかった。 拠点設置が効果的な候補施設の検討及び関連調査等を進めた。 				

内部評価 (平成30年度)

平成29年度に貸出・返却拠点として設置した福岡市科学館での実績等を検証した。また拠点の新設を見込んで物流経費等の確保に努めたが、平成30年度においては予算が見込めず、他の施設における具体的な設置検討に至らなかった。しかし、引き続き拠点設置が効果的な候補施設の検討及び関連調査等を進めてきたためB評価とする。	B
---	---

外部評価 (平成30年度)

<ul style="list-style-type: none"> 貸出・返却拠点の新設が望まれるなか、取組みが停滞している。 新ビジョン事業計画及び成果指標(平成26年度～平成30年度)で目標とした貸出拠点15地点、返却拠点25地点を下回るのは残念である。 図書館のサービスをより身近なものと感じられるよう交通の便の良い場所での貸出・返却サービスの充実を引続き検討していく必要がある。 福岡市科学館での取組みは評価できる。それを踏まえて新たな拠点を選び協議していくことを望む。 貸出・返却拠点設置について効果的な候補施設の検討及び関連調査等を進めてきたが具体的な設置検討まで至っていない。 	A : 0 B : 3 C : 2 D : 0
---	----------------------------------

前期事業計画(平成26年度～平成30年度)の総括

平成25年度から、返却拠点3地点(木の葉モール橋本、ふくふくプラザ、九州がんセンター)を新設した。また、少年科学文化会館の貸出・返却拠点を同館の閉館に伴い平成27年に廃止したが、平成29年開館の福岡市科学館に新たに拠点を設置した。今後も利用者の利便性の向上を考慮し貸出・返却拠点の設置を推進する。
--

平成30年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	誰もが楽しめる魅力ある図書館	項目	利用時間の拡大		
内容	開館時間, 休館日の見直し				
事業計画	休館日及び開館時間の見直しを行い, 図書館を利用できる時間を拡大することにより, 図書館利用者の利便性の向上を図ります。				
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	【休館日】 検討(段階的に実施) →				
	◇全館		◇東		
	【開館時間】 検討(段階的に実施) →				
		◇総合, 東			
平成30年度					
計画	総合図書館及び分館の開館時間, 休館日の見直しについて, これまでの検討結果及び東図書館での実施状況, 成果を検証し, 継続的に検討をすすめていく。				
取組状況	図書館の満足度調査を実施するとともに, 各分館の立地や地域性, 現在の分館の利用状況を踏まえ, 見直しを検討してきた。東図書館の立地や開館時間の延長や休館日の変更に伴う利用者の増要素も加味して検討を行った。				

内部評価 (平成30年度)

アンケート調査を平成30年度も実施し, 利用者の意見を調査した。具体的な見直しのために分館の立地や地域性などを考慮して検討に着手したためB評価とする。	B
---	---

外部評価 (平成30年度)

<ul style="list-style-type: none"> ・市政アンケート調査の結果, 開館時間の延長を望む割合が2割に満たないが開館日や開館時間の延長に向けた検討材料の収集や着手に時間がかかりすぎている。 ・曜日の問題も含めて, 開館に関しては検討不足である。 ・利用時間の拡大は, 人件費や光熱費などのコストアップに直結する取り組みであり, やみくもにすべきではない。立地や利用特性を把握し効果測定をしつつ慎重に取り組んでほしい。 ・一律ではなく分館ごとに検討し実行に移すことを望む。長年の利用者の要望に応じてほしい。 	A : 1 B : 3 C : 1 D : 0
---	----------------------------------

前期事業計画(平成26年度～平成30年度)の総括

総合図書館と東図書館において, 開館時間の延長や東図書館の休館日の変更も行った。東図書館は, 利用時間延長等で利用者の利便性は向上したと思われるが, 立地が良いため利用時間延長のためだけとは分析できない。今後は, 各分館ごとに立地や地域性も考慮して検討する。

平成30年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	誰もが楽しめる魅力ある図書館	項目	図書館イベントの充実		
内容	図書館イベントの充実				
事業計画	成人を対象とした読書会等を実施し、読書の普及や図書館の活用促進を図ります。				
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
		計画	大人向けイベントの実施		
平成30年度					
計画	総合図書館及び分館において、共通テーマで選んだ各館の蔵書を10月に一斉展示する「図書館マンス」をはじめ、「こどもの読書週間」や「読書週間」などを中心に読書普及につながるイベントを企画・実施する。また、大人を対象とした読書イベントを今後も継続して企画・実施する。				
取組状況	10月の「図書館マンス」において、総合図書館及び分館で「図書館NEXT」を共通テーマとし、さらに各部門毎にサブテーマを設定して、展示や様々なイベントを実施した。 「こどもの読書週間」においては、ぬいぐるみおはなし会やこどもの日特別おはなし会を開催した。 また、総合図書館や分館で大人向けの読書会を、福岡おはなし会による「大人向けのストーリーテリング」、ポップ製作、落語会、講演会など、大人向けのイベントを実施した。さらに、ヤングアダルト層を対象として、ビブリオバトルやTRPGなどを実施した。 読書行事等イベント(総合図書館・分館1,067回 24,482人 展示(総合図書館)72回				

内部評価

総合図書館及び分館において、「図書館マンス」を始め数多くの様々なイベントを実施することができたのでA評価とする。	A
--	---

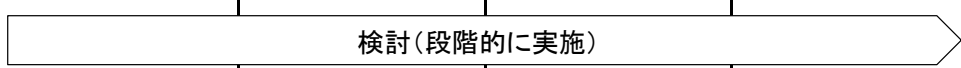
外部評価

<ul style="list-style-type: none"> ・10月に行われる図書館マンスを評価する。3, 4館見たが各館、努力し特色を出していた。分館は狭くて目立たないため周知を願う。 ・世代を超えたイベントの開催は評価できる。 ・蔵書と連動させつつイベントを充実してほしい。 ・あらゆる年齢層の人達に興味を持って図書館に足を運んでもらえるように工夫をこらしたイベントが行われ定着してきているので更なる企画を期待する。 ・「図書館マンス」等多くのイベントをいかに広めるかもこれからの課題である。 	A : 5 B : 0 C : 0 D : 0
--	----------------------------------

前期事業計画(平成26年度～平成30年度)の総括

総合図書館で、子ども向けのおはなし会や体験講座、大人向けの講座など、様々な幅広い層に向けイベントを実施した。また、分館においては、地域の特色を生かしたテーマや独自の視点による多様なイベントを実施した。今後も、幅広い層に向けたイベントを推進する。
--

平成30年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	誰もが楽しめる魅力ある図書館	項目	快適な空間づくり		
内容	やすらぎと交流の場づくり				
事業計画	誰もが気軽に立ち寄り、思い思いの時間を過ごし、くつろぎ楽しむ、潤いややすらぎの場となるよう、エントランスホールや正面玄関前広場等を活用し、快適な空間づくりを行います。 また、広場等を活用したイベントを実施していきます。				
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
					
		◇エントランス, 広場			
平成30年度					
計画	指定管理者と連携して、快適な空間づくりや来館者のニーズに合ったイベントを企画実施していくとともに、イベントと連動した企画展示などの図書利用促進に向けた取り組みを継続していく。				
取組状況	エントランスホールや会議室にて年間約30件のイベントを開催し、参加者へのアンケートでは、おおむね90%超の満足を得ている。1階飲食コーナーには、コンビニ自動販売機を設置し利用者への利便性向上を図っている。				

内部評価 (平成30年度)

平成30年12月に指定管理者が総合図書館の来館者300名を対象に実施した利用者アンケートでは、イベントの開催について94.4%が満足していると答えておりA評価とする。	A
---	---


外部評価 (平成30年度)

<ul style="list-style-type: none"> ・総合図書館は、来館者が寛いでいるように見えるので快適な空間づくりはできている。 ・神奈川県大和市の文化拠点施設シリウスにある図書館など参考にしつつ更なる改善を期待する。 ・満足度90%超は極めて優秀だと感じる。 ・「図書館へ行くといつも楽しくくつろげる」と思えるような空間づくりやイベントの企画、広報を今後も進めてほしい。 	A : 5 B : 0 C : 0 D : 0
---	----------------------------------

前期事業計画(平成26年度～平成30年度)の総括

図書館への来館, 利用を促すため様々なイベントを開催するとともに軽い談話ができるコーナーづくりなど, 場の創出を行ってきた。今後も積極的に図書館利用の促進に向けた取り組みを推進していく。

平成30年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	誰もが楽しめる魅力ある図書館	項目	快適な空間づくり		
内容	館内レイアウトの変更				
事業計画	文学資料エリアのリニューアル、ビデオライブラリーの見直し及びカフェスペースの設置などを行い、図書館の魅力の拡大を図ります。				
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
				◇文学資料エリア, ビデオライブラリー, カフェスペース	
平成30年度					
計画	館内レイアウトの見直しについては、福岡市総合図書館新ビジョンの後期5年間(2019年度～2023年度)の事業計画策定の中で再度検討を進めていく。				
取組状況	従来、赤煉瓦文化館に設置していた文学館を総合図書館内に移設し、図書資料との連携をより充実する。				

内部評価 (平成30年度)

館内レイアウトの見直しについては、文学館の移設に合わせ一部レイアウトの変更を行ったためB評価とする。	B
--	---

外部評価 (平成30年度)

<ul style="list-style-type: none"> ・館内レイアウトの検討は、「やすらぎと交流の場」としてのコンセプトを基本に人が集まれる場を考えてほしい。 ・後期ビジョンの中で、是非、これまで以上に魅力ある図書館となるよう計画を進めてほしい。 ・展示スペースなど魅力的に見えない。更なる整備を望む。 ・一部レイアウトの変更を行い改善に努められている。 	A : 1 B : 3 C : 1 D : 0
---	----------------------------------

前期事業計画(平成26年度～平成30年度)の総括

文学資料エリアやビデオライブラリーの大規模な見直しには至らなかったが、談話ができるカフェスペースの新設など一定の魅力向上を図ることが出来た。今後は、平成29年度に策定した長期保全計画に基づきレイアウトの変更等を検討する。
--

平成30年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	さまざまな情報を求める市民に応える図書館	項目	図書館サービスの充実		
内容	資料収集の充実				
事業計画	公共図書館としての役割を発揮するため、図書資料の収集方針の見直しを行い、計画的な資料収集に努めるとともに、電子書籍の取り扱いについて検討します。 分館においては、地域の実情にあわせて特色を持たせた資料収集を行っていきます。				
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	総合収集方針改定		分館収集方針作成	分館収集方針改定・更新	
平成30年度					
計画	電子書籍の導入に関しては、業界の動向を踏まえて、検討を継続していく。前期に、総合の収集方針を見直したので、それに基づいて、選書を行う。 分館における資料収集方針については、年度毎に更新することとしており、平成30年度については5月末までに見直しを行う。				
取組状況	令和元年度のシステム更新に向けて、電子書籍システムに対応できるように検討した。導入については、継続して検討を行った。 【総合】収集方針に基づいて、より市民ニーズに応えるように選書を行った。 【分館】分館においては、一般的な資料収集に併せて、地域の実情にあわせた特色を持たせた資料収集も継続。				

内部評価 (平成30年度)

電子書籍については、継続して検討しており、資料収集について総合図書館では、より市民ニーズを踏まえた収集を行い、分館では地域の実情に合わせた特色を持たせた選書を行っているためA評価とする。	A
---	---

外部評価 (平成30年度)

<ul style="list-style-type: none"> ・分館それぞれに地域の実情にあわせた特色を持たせた選書を行うための予算は確保できるのか。 ・市民一人あたりの蔵書数が1冊強であり利用者アンケートにも新しい本が欲しいとの声もある。更なる充実が求められる。 ・市民ニーズは多様と考えるがあくまでも図書館側で収集方針を定めて、市民の欲求や気づきを引き出せるような蔵書構成にしてほしい。また、蔵書の見せ方・活用も同時並行で進めてほしい。 ・予算の確保に取り組み市民ニーズにあった資料収集の継続を望む。ことに次につながる子どもの本の充実を期待する。電子書籍の導入に関しては、慎重に検討しながら進めてほしい。 	A : 3 B : 2 C : 0 D : 0
--	----------------------------------

前期事業計画(平成26年度～平成30年度)の総括

総合図書館および分館の収集方針を見直し、より市民ニーズの高い本を選書するようにした。また、分館においては、地域の実情に合わせた特色のある資料収集を行なった。今後も収集方針に沿って進めていく。また、電子書籍の導入については、提供可能な資料の量と経費を勘案しながら継続して検討する。

平成30年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	さまざまな情報を求める市民に応える図書館	項目	図書館サービスの充実		
内容	レファレンス(相談)サービスの充実				
事業計画	電子メールによるレファレンスサービスを実施し、利用者への図書館サービスの充実と利便性の向上を図ります。				
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	検討				
	システム対応	電子メールによるレファレンスサービス			
平成30年度					
計画	引き続き、レファレンス(相談)サービスの充実を図っていく。				
取組状況	平成28年8月より、電子メールによるレファレンスサービスを開始。図書館HPのトップページにある「調査・相談(レファレンス)」の「電子メールでのご相談」コーナーから問い合わせができる。利用実績は、図書資料関連では、46件(29年度)→50件(30年度)に、文書資料・郷土資料関連では、20件(29年度)→38件(30年度)に増加した。				

内部評価

メールレファレンスについての広報活動により利用が広がっており、A評価とする。	A
--	---

外部評価

<ul style="list-style-type: none"> ・総合図書館のレファレンスサービスは良いと感じている。充実したレファレンスサービスを受けられるよう広報活動を続けてほしい。 ・電子メールでのレファレンスは、当初の目標1,500件に対し、利用案内も含め83件と大きな乖離がある。 ・レファレンスの基本は、対面・対話であるが問合せ窓口の多様化という点でメールレファレンスに対応している点は、評価できる。 ・レファレンス利用の啓発・広報に更なる工夫を望む。 ・メールレファレンスについての広報活動により活用が広がっている。 	A : 4 B : 1 C : 0 D : 0
---	----------------------------------

前期事業計画(平成26年度～平成30年度)の総括

<p>平成28年度途中からのメールレファレンスを開始し、当初は伸び悩んだが着実に利用件数が増えており、レファレンスの新たな在り方として定着してきた。今後もメールレファレンスを継続するとともに、レファレンスサービスのさらなる充実を図っていく。</p>
--

平成30年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	さまざまな情報を求める市民に応える図書館	項目	図書館サービスの充実		
内容	情報提供の充実				
事業計画	ビジネス支援や子育て支援などの課題解決に対して、本市関係部局及び国・県等関係機関と連携を図りながら、図書館資料を活用した展示等の情報提供などを行っていきます。				
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	計画	ビジネス支援等の情報提供			
平成 30 年 度					
計画	ビジネス支援などの課題解決に対して、本市関係部局及び国・県等関係機関と連携を図り、引き続き図書館資料を活用した情報提供の充実を図る。 ビジネス支援及び医療情報支援について継続実施するとともに、さらに暮らしに密着した情報等について支援を検討していく。				
取組状況	<p>○ビジネス支援として、毎月第2・第4日曜日に中小企業診断士による起業・経営相談会を開催した。 年間開催数 72回(3回/日×24日) 13件申込、起業相談が約9割 相談会開催については11月15日号の市政だよりで広報し、図書館ホームページでは毎月周知を図った。</p> <p>○医療情報の提供として、総合図書館、分館で九州がんセンター及び済生会福岡総合病院から医師等を講師として 招き講演会を開催した。</p> <p>①総合図書館:H30. 4.22(日):笑いのがんと肝臓病について 54人参加 H30.10.20(土):緩和ケアとACPIについて 32人参加</p> <p>②和白図書館:H30.9.19(水)肺がん H30.11.14(水)乳がん 計44人参加</p> <p>③博多南図書館:H30.7.12(木)胃がん 27人参加</p> <p>④中央図書館:H30.10.19(金)大腸がん H31.1.16肺がん 計84人参加</p> <p>⑤西部図書館:H30.11.11(日)健康講座「がんの予防」 12人参加</p> <p>○関係部局と連携して展示を行い、パンフレットの配布などにより、市の事業、新たな制度、相談窓口等の情報提供を行った。 情報提供を行った展示件数 51件</p>				
内 部 評 価 (平成30年度)					
計画どおり実施していることから、A評価とする。					A
外 部 評 価 (平成30年度)					
<p>・多方面の支援が広がれば良いと思うが現段階でもいろいろ取り組まれ努力している。</p> <p>・文部科学省は、①ビジネス支援②行政情報提供③医療情報提供④法務関連情報提供⑤学校教育支援(子育て支援含む)⑥地域情報・地域文化発信の情報提供を目標としている。②④も含めて更なる努力を期待する。</p> <p>・課題解決や自己実現に対する貢献が図書館の重要な役割なので他部局の施策と効果的に連動させながら更なる充実を図ってほしい。</p> <p>・子育て支援など市民の暮らしに寄り添うような情報提供や支援も充実させてほしい。</p>					<p>A : 5</p> <p>B : 0</p> <p>C : 0</p> <p>D : 0</p>
前期事業計画(平成26年度～平成30年度)の総括					
起業・経営相談、がんの講演会、関係部局との連携展示などを着実に実施できた。今後も、課題解決型支援の充実に取り組んでいく。					

平成30年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	さまざまな情報を求める市民に応える図書館	項目	図書館サービスの充実		
内容	ホームページの複写サービス				
事業計画	福岡市及び国等のホームページに掲載されたインターネット情報を利用者の調査研究に役立てるため、同資料を収集し、複写サービスを提供します。				
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	試行	ホームページ等の複写サービス			
平成30年度					
計画	福岡市及び国等のホームページに掲載されたインターネット情報を利用者の調査研究に役立てるため、引き続き複写サービスを提供する。				
取組状況	福岡市及び国等のホームページに掲載されたインターネット情報を利用者の調査研究に役立てるため、複写サービスの提供を行った。 平成30年度受付件数27件				

内部評価 (平成30年度)	
計画どおり実施していることから、A評価とする。	A

外部評価 (平成30年度)	
<ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度より5件増えその継続を評価する。 ・利用者に周知されているとは言い難い。広報の手段は充分だったのか。 ・複写サービスの提供の継続を評価する。広報が必要だと感じている。 	A : 5 B : 0 C : 0 D : 0

前期事業計画(平成26年度～平成30年度)の総括
レファレンスにおいて、参考資料の一つとして複写を行ない、利用者に手渡す仕組みを確立したため、後期の目標とはしない。

平成30年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	さまざまな情報を求める市民に応える図書館	項目	図書館サービスの充実		
内容	無線LAN環境の整備				
事業計画	利用者の調査・研究の補助として、個人持ち込みの端末機器(ノートパソコン、タブレット、スマートフォン等)が利用できるよう、公衆無線LAN「Fukuoka City Wi-Fi」によるインターネット環境を整備し、利用者の利便性の向上を図ります。 なお、分館については、施設管理者と検討を進めます。				
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	検討、協議				
	◇総合		◇分館 (1館)	◇分館 (3館)	◇分館 (3館)
平成30年度					
計画	各分館が入居する市民センターなどの施設を所管している市民局と、引き続き無線LANの設置について協議を行っていく。				
取組状況	市民センター・地域交流センターへの「Fukuoka City Wi-Fi」の導入が進んでおらず、平成30年度で新規に開設したものはなかった。				

内部評価(平成30年度)

事業計画のどおりに事業実施ができなかったためC評価とする。	C
-------------------------------	---

外部評価(平成30年度)

<ul style="list-style-type: none"> ・導入に時間がかかっている。 ・計画通りに進める努力を希望する。 ・インターネット利用環境は、図書館サービスとして必須であり早急な対応を強く働きかけていくべきである。 ・すべての館でWi-Fiの導入は急務であり早急に取り組み実現することを望む。 ・事業計画通りに事業が実施できていない。 	A : 0 B : 0 C : 5 D : 0
---	----------------------------------

前期事業計画(平成26年度～平成30年度)の総括

総合図書館においては、「Fukuoka City Wi-Fi」を設置し利用に供しているが分館については、市民センターや地域交流センターへの整備がなされていないことから未導入である。今後は、各分館での利用者ニーズと対費用効果を勘案し、導入について検討は行うが後期の目標設定はしない。
--

平成30年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	さまざまな情報を求める市民に応える図書館	項目	地域読書活動への支援		
内容	団体貸出先の拡大				
事業計画	図書館利用が困難である施設入所者等への団体貸出を実施し、団体貸出サービスの充実を図ります。団体貸出先については、高齢者施設や病院などに広報活動を行い、貸出先を拡充。				
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	検討	団体貸出先の拡大			
平成30年度					
計画	平成30年度目標登録団体数の390団体に向けて拡大への取り組みを進める。				
取組状況	団体貸出の登録団体は平成30年度末時点で396団体となり、平成29年度に比較して10団体増加した。また、地域文庫交流会で未登録の公民館関係者に対する広報活動を実施した。				

内部評価 (平成30年度)

平成30年度目標登録団体数の390団体を超える396団体を登録することができたためA評価とする。	A
--	---

外部評価 (平成30年度)

<ul style="list-style-type: none"> ・団体貸出の登録が年々増えているのは嬉しい。高齢者施設へ行き話を聞いたが入所者に喜ばれていた。一層の広報と資料の充実は欠かせないと思う。 ・高齢者施設数、病院等の貸出先の内訳の公開を望む。 ・団体貸出は図書へのアクセシビリティ向上にとって大切なので、効果的に進めてほしい。 ・登録団体の増加を評価するとともに図書資料の充実と確保を望む。また、歩いて行ける公民館や留守家庭子ども会への広報を強化してほしい。 ・目標を超えることができた。 	A : 5 B : 0 C : 0 D : 0
---	----------------------------------

前期事業計画(平成26年度～平成30年度)の総括

登録団体数は継続して増加している。今後も安定して事業を継続していくため、制度周知に努めるとともに蔵書の充実を図るなど、重点的に取り組んでいく。

平成30年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	さまざまな情報を求める市民に応える図書館	項目	地域読書活動への支援		
内容	公民館等の読書活動への支援				
事業計画	地域において読書活動を行っている公民館や留守家庭子ども会等を訪問して、図書コーナー(室)の運営や環境整備への助言や支援等を行います。				
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
		協議	公民館等への支援		
平成30年度					
計画	地域における読書活動の支援は、第3次福岡市子ども読書活動推進計画において重点的に取り組むべき施策と位置付けられ、関係各課と連携して取り組みを進める。 また、留守家庭子ども会など選本に来館することが困難な団体に対する支援として、セット本以外の蔵書も利用できるように、登録団体に団体部門の蔵書検索を可能にできないか引き続き検討を行う。				
取組状況	公民館への読書活動支援について生涯学習課と連携して、昨年度に引き続き地域文庫交流会を、日程や会場を参加しやすいよう工夫したうえで、生涯学習課主催の「公民館文庫活動実践報告・交流会」と併せて共同開催し、支援の拡大を図った。団体貸出における公民館の登録数は61団体であり、平成29年度と同数であった。 団体貸出部門の蔵書検索をホームページ上で行えるようにするには、多大な開発経費を要することが判明した。 地域の読書活動団体への訪問や講座開催などの新たな支援について検討に着手した。				

内部評価 (平成30年度)

公民館等の読書活動への支援について関係課と連携し、昨年に引き続き地域文庫交流会を生涯学習課と共同で開催するとともに、新たな支援について検討に着手するなど取組みを進めたが、成果が不十分な面もあるためB評価とする。	B
---	---

外部評価 (平成30年度)

<ul style="list-style-type: none"> ・訪問支援やニーズの高い講座の開催の取組みが進むことを願う。 ・公民館との連携を密にする努力を継続してほしい。 ・公民館や留守家庭子ども会は、図書との出会いの場として重要なので引き続き関係性を深め、各所のニーズや希望に応じた対応ができるように検討を進めてほしい。 ・利用しやすい工夫を進め引き続き取り組んでほしい。団体部門の蔵書検索に関しては代案はないだろうか。経験ある読書ボランティアを地域団体へ派遣することは読書活動支援に効果があると思う。 ・成果に不十分な面がある。 	A : 0 B : 5 C : 0 D : 0
--	----------------------------------

前期事業計画(平成26年度～平成30年度)の総括

公民館への支援を強化するため、公民館と地域文庫をつなぐ事業に取り組んできたが、今後は地域の読書活動団体への訪問支援やニーズの高い講座開催など、新たな支援にも段階的に取り組んでいく。
--

平成30年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	さまざまな情報を求める市民に応える図書館	項目	市関連施設の図書室の相互協力		
内容	議会図書室との連携				
事業計画	議会図書室と連携し、議会における政策、立案等の調査・研究を支援します。				
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	協議	議会図書室との連携			
平成30年度					
計画	引き続き議会図書室への図書資料の貸出による支援を実施する。				
取組状況	平成26年度から、議会図書室を通じて市議会議員及び市職員への図書資料の貸出による支援を実施している。 市役所各所属への周知については、議会図書室と協力し、毎月、制度についての広報を実施している。				

内部評価

議会図書室への図書資料の貸出による支援は継続したが、貸出冊数が前年を下回ったため、B評価とする。 29年度 24件 38冊 30年度 12件 16冊	B
--	---

外部評価

<ul style="list-style-type: none"> ・利用者が限定的とあまり熱心さが無い。 ・図書館の行政支援、立法支援はサービス内容から欠かすことが出来ない。後期の目標から外すことは誤りである。 ・議会図書室(議員)が求めるニーズを拾い上げプッシュ型での働きかけを検討してほしい。また、行政情報の分野での包括的な連携の可能性についても模索してほしい。 ・議会への情報提供と支援は市政の向上に寄与する。さらなるPRとアプローチを望む。 ・貸出冊数が前年度を下回っている。 	A : 0 B : 4 C : 1 D : 0
---	----------------------------------

前期事業計画(平成26年度～平成30年度)の総括

平成26年度から開始したが利用者は限定的である。後期は、引き続き広報に努めるが目標の設定はしない。

平成30年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	さまざまな情報を求める市民に応える図書館	項目	市関連施設の図書室の相互協力		
内容	市施設の図書室との相互協力				
事業計画	少年科学文化会館及びふくふくプラザなどとの連携, 相互協力化を検討します。				
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
		検討, 協議			連携
平成30年度					
計画	現在連携を行っていない市施設との相互協力化を検討する。				
取組状況	平成29年10月に連携を開始した福岡市科学館・サイエンスナビ(図書室)において, 分館を含めた総合図書館の図書資料の貸出・返却を引き続き実施するとともに, 夏休み期間にサイエンスナビにおいて総合図書館の科学関連児童図書の展示を行った。科学館の実施状況を踏まえ, 新たな市関連施設図書室との連携の可能性について検討を行った。				

内部評価 (平成30年度)

福岡市科学館(図書室)での利用の増加を図ることができたため, A評価とする。 平成30年度 利用者数 12,669人 貸出冊数 28,556冊 返却冊数 35,712冊 (平成27年度 利用者数 2,587人 貸出冊数 5,305冊 返却冊数 6,777冊)	A
---	---

外部評価 (平成30年度)

<ul style="list-style-type: none"> ・市施設の図書館との相互協力が進んでいるが今後も進めてほしい。「あすみん」にも図書を置いてほしい。 ・今後の更なる充実を期待する。 ・福岡市科学館との連携は効果的であり, 高く評価できる。例えば福岡市の他部局のスタートアップカフェやエンジニアカフェなどでの連携も検討すべきである。 ・福岡市科学館との連携の実績を足がかりに他の施設での取組みに着手し拡げてほしい。 ・福岡市科学館(図書室)での利用の増加を図ることができた。 	A : 5 B : 0 C : 0 D : 0
---	----------------------------------

前期事業計画(平成26年度～平成30年度)の総括

平成27年度から, ふくふくプラザで図書資料の返却を開始。また, 少年科学文化会館の閉館に伴い廃止予定であった貸出・返却拠点としての機能を, 福岡市科学館に引き継いで実施した。また, 連携を行っていない市施設の図書室との相互協力化については検討を継続した。今後も, 市関連施設との連携について検討する。

平成30年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	子どもと本をつないで豊かな心を育む図書館	項目	子どもへの読書普及		
内容	モデル児童図書目録の配布				
事業計画	子どもたちやその保護者等が子どもの本を選ぶ目安として、各年齢層に応じた本を紹介したリストを配布し、子どもの読書推進に寄与します。				
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	幼児用 作成	◇配布 【モデル児童図書リスト】			
		検討, 協議	H28版 作成	◇配布 H29版 作成	◇配布
					H30版 作成
平成30年度					
計画	モデル児童図書リストの内容を順次充実を図り、関係機関(保育園, 小学校, 公民館等)に配付し、掲載図書を展示、貸出を行う。 また、おはなし会等の催しにおいて掲載図書を紹介し、リストの活用や貸出を促す。				
取組状況	見直しを行ったモデル児童図書リストの配付(約2,800部)を行うとともに、カウンターでのレファレンスのツールとして有効に活用した。また、従来のモデル児童図書目録掲載図書に加え、リスト掲載図書の展示、貸出を行った。				

内部評価 (平成30年度)	
モデル児童図書を展示し、貸出を継続して行うとともに、見直しを行ったモデル児童図書リストの配付を行って、掲載図書の貸出の増加を図ることができたためA評価とする。	A

外部評価 (平成30年度)	
<ul style="list-style-type: none"> ・モデル児童図書目録は、優れているので継続してほしい。 ・以前、発行していた「モデル児童図書目録」もホームページからダウンロード出来るようにしてほしい。 ・掲載図書の貸出が増加したということでリストの効果が出ていると考えられ評価できる。 ・モデル児童図書目録の選書やリストの配布は、評価できる。継続するとともにリスト掲載の本の充実を望む。 ・掲載図書の貸出の増加を図ることができた。 	A : 4 B : 1 C : 0 D : 0

前期事業計画(平成26年度～平成30年度)の総括
モデル児童図書目録については、長年にわたり大きな役割を果たしてきたが、子どもが興味を抱く様々な分野の比較的新しい本をタイムリーに届ける為に、制約のある冊子形態を毎年発行するリーフレット形態に改め、従来の目録と合わせて紹介していくよう見直しを実施した。今後も各年齢層に応じた本を紹介したリストを配布する。

平成30年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	子どもと本をつないで豊かな心を育む図書館	項目	子どもへの読書普及		
内容	新一年生への貸出カードの付与				
事業計画	新一年生のうち図書館の貸出カードを所有していない児童を対象として、貸出カードを付与することにより、読書の普及等を図ります。				
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
		検討、協議	貸出カードの付与		
平成30年度					
計画	平成29年度の状況を踏まえ、継続して行うか検討し判断する。 また、小学校2、3年生を対象とした図書館見学、読書リーダー養成講座や図書館の達人講座など児童を対象としたイベントの際に貸出カードの作成を促す手法等について検討・実施する。				
取組状況	平成29年度に試験的に小・中学校各1校の全児童・生徒を対象に、貸出カードの作成に関する案内等を実施したが、貸出カードは個人情報を元にした申請が必要で、図書館並びに学校側で手間暇を要する割にはほとんど申請に繋がらなかったことから、同様の手法による取り組みは継続しないこととした。従来の小学生の図書館見学の際に指定管理者が実施している貸出カード作成の呼びかけに加えて、「小学生読書リーダー養成講座」などの研修・イベントの際に貸出カードの作成を促す取り組みに着手した。				

内部評価 (平成30年度)

様々な機会をとらえて貸出カードの作成を促したが、具体的成果が不明のため、C評価とする。	C
---	---

外部評価 (平成30年度)

<ul style="list-style-type: none"> ・取り組んだ成果がなく残念である。貸出カードの作成が進み図書館に来て本に出会う機会をつくるよう方策を試してほしい。 ・新一年生に貸出カードを発行する取組みはシンボリックであるが、難しい取組みであることも見えてきたため「図書を借りたい」「図書館に行きたい」と思ったタイミングを捉えて学年を問わず発行につながる取組みへシフトすべきである。 ・子どもが図書館へ行って本を借りたいと思うような又、大人(保護者)が子どもを本好きに思うようなイベントや研修と貸出カード作成を促すなど図書館利用を増やしていく取組みと合わせて行うなど工夫が必要と考える。 ・具体的な成果が不明。 	A : 0 B : 1 C : 4 D : 0
--	----------------------------------

前期事業計画(平成26年度～平成30年度)の総括

<p>新一年生への貸出カードの付与については、平成27年度に検討を行い、個人情報上の観点から一律に作成配布することはできないと判断され、平成28年度に各小学校長に対し登録の手続きの案内を送付し保護者への配布を依頼したが、登録は137名に留まった。そのため、平成29年度は更にモデル校2校(小中各1校)について新1年制だけでなく全生徒への配布を試行したが、新1年生が全体で90名、モデル校の登録は僅か4名に留まった。学校を通じて保護者に案内を配布する手法では業務量と経費のわりにわずかな登録に留まり、様々な機会に呼びかける手法に転換した。今後は、1年生に限定せず貸出カードの作成を推進する。</p>
--

平成30年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	子どもと本をつないで豊かな心を育む図書館	項目	子どもへの読書普及		
内容	ヤングアダルト層(12歳～18歳)への広報活動の強化				
事業計画	総合図書館内にヤングアダルトコーナーを設置し、推薦図書の見出し等を実施するとともに、ヤングアダルト向けの推薦図書に関するリストを作成・配布することで、読書普及のための広報を実施します。				
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
平成30年度					
計画	従来の対応を継続することに加え、他の政令指定都市立図書館の取り組み等を参考に、ヤングアダルト層に対する広報活動を充実する企画を立案し、実施に向けて作業を進める。 また、市立高等学校を対象に、総合図書館の一般書架の図書資料を調べ学習用に貸出する制度を継続する。				
取組状況	推薦図書の見出しやリスト配布に加え、新たに、ビブリオバトルやTRPG、読書会などヤングアダルト層の読書活動の促進に資するイベントを実施した。また、市立高等学校を対象に、総合図書館の一般書架の図書資料を調べ学習用に貸出する制度を実施した。(3高等学校 191冊貸出:3月末現在) 12月1日には、よかたい図書館共同事業体と共催して初めて全国高等学校ビブリオバトル福岡県大会を開催し、15校が参加した。				

内部評価 (平成30年度)	
従来の対応に留まらず、ビブリオバトルなど、新しくヤングアダルト層の読書活動の促進につながるイベントを開始し、今後の拡大が期待できるものとなったためA評価とする。	A

外部評価 (平成30年度)	
<ul style="list-style-type: none"> ・分館のヤングアダルト書架を見て良いコーナーだと感じている。これからも継続して広報活動の促進に努めてほしい。 ・中学校、高校と連携し、図書館見学を増やすようにしてほしい。 ・高校受験や大学受験などと連動させた企画で歴史や地理、文学、古典、理科など教科書に出てくる内容の原典や参考書籍に出会える機会をつくり、理解や知識を深める取組みをしてはどうか。また、関心が高まっているプログラミングなどの理解を助けるようなコーナーも検討してほしい。 ・ヤングアダルト層の読書活動促進のためのイベントの開催など取組みは評価できる。それをどう広げていくかが次の課題である。更なる取組みを望む。 	<p>A : 3</p> <p>B : 2</p> <p>C : 0</p> <p>D : 0</p>

前期事業計画(平成26年度～平成30年度)の総括
ヤングアダルト向けのイベントとして、TRPG、ボードゲーム、ビブリオバトルなどを実施し、中高生向けの読書活動推進を図った。今後も広報やイベントを充実させ、中高生に訴求する資料収集を進める。

平成30年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	子どもと本をつないで豊かな心を育む図書館	項目	子どもへの読書普及	
内容	読書活動ボランティア講座の強化			
事業計画	読書活動ボランティア講座を開催し、学校や地域等幅広いボランティアを養成して、地域の読書活動の推進に寄与します。			
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度
	準備	初心者向け講座(→絵本の読み聞かせコース)の実施		
	準備	経験者向け講座(→ストーリーテリングコース)の実施		
平成30年度				
計画	平成30年5月～6月に絵本の読み聞かせコースを、平成30年9月～11月にストーリーテリングコースをそれぞれ実施する。また、平成31年2月に反復練習のためのおさらい会を実施する。講座受講者には、受講後に地域文庫MAPを配布し、地域での活動参加につなげる。			
取組状況	平成30年5月～6月に絵本の読み聞かせコース(4日間、100名)を実施し、平成30年9月～11月にストーリーテリングコース(4日間、60名)を実施し、併せて延べ540名の参加があった。講座受講者には、福岡市内で活動している文庫団体の活動拠点を掲載した地域文庫MAPを配布し情報提供を行った。また、昨年に引き続き平成31年2月にストーリーテリングコースのおさらい会(1日間、参加18名)を実施した。			

内部評価(平成30年度)

計画通りに進捗しているためA評価とする。	A
----------------------	---

外部評価(平成30年度)

<ul style="list-style-type: none"> ・読書活動ボランティア講座の開催は、成果を上げている。 ・順調に計画が進んでいる。 ・高評価なので読書活動ボランティアの方々ニーズや希望に則してコースメニューに工夫をこらしつつ継続的に推進してほしい。 ・総合図書館での読書ボランティア講座は充実してきていると評価できる。身近なところで学ぶ機会があると更に良いと考える。 	A : 5 B : 0 C : 0 D : 0
--	----------------------------------

前期事業計画(平成26年度～平成30年度)の総括

本講座は毎年募集人員いっぱいの熱心な参加者があり、さまざまな読書活動団体から、読書活動を支える人材の育成に役立っているとの評価を得ている。今後も、学校や地域等幅広いボランティアを養成し、地域の読書活動の推進に寄与する。

平成30年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	子どもと本をつないで豊かな心を育む図書館	項目	学校図書館への支援		
内容	学校図書館支援センターの設置				
事業計画	総合図書館内に学校図書館支援センターを設置し、学校図書館への人的・物的支援を行います。 ・学校図書館への運営等に関する指導、助言 ・学校図書館の図書への選書や助言 学校図書館支援センターについては、学校指導課と連携して、学校図書館を支援していきます。				
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	準備	学校図書館への支援			
		図書の配送			
ホームページ運用					
平成30年度					
計画	平成29年度までの3か年に実施した学校訪問や相談対応、貸出実績等を基に、今後の取り組みの方向性について検討し、より学校現場の需要にマッチした支援が行えるよう努める。また「小学生読書リーダー養成講座」については、昨年度に引き続き3日間の開催とする。				
取組状況	平成29年度に市内全小中校への学校訪問が実施できたため、平成30年度は要請訪問を中心に47回の訪問を実施した。小学生用の学習支援用図書貸出については、55校から148回の利用があり、5,641冊貸出した。中学生用の学習支援図書貸出については本年度は11回、497冊の貸し出しを行った。 また、市内小学校5・6年生を対象に、受講した児童を「小学生読書リーダー」に認定する「小学生読書リーダー養成講座」については、6月に3日間開催し、71校から231名の参加があった。				

内部評価 (平成30年度)	
中学校向けの支援について登録及び貸出とも伸び悩んでおり、更なる周知が必要であるが、概ね計画通りに進捗し、小学校向け支援用図書の貸出についても貸出用資料冊数の制限がある中で安定して貸し出しを行っており、事業の認知と活用が進んでいるためA評価とする。	A

外部評価 (平成30年度)	
<ul style="list-style-type: none"> ・小学生用の学習支援用図書の貸出が平成29年度より減少しているのは何故か。中学校は増えているが、活動に工夫の余地があるのではないか。 ・中学校向けの支援を更に進めてほしい。 ・市内の小中学校の図書館とのつながりの深さは高く評価できる。引続き学校司書、司書教諭、小学生読書リーダーに役立つ取組みを進めてほしい。 ・取組みは評価できるが中学校向けの更なる支援がますます必要となっている。又、絵本から児童書へという大切な8歳～9歳の小学生への支援の強化も望まれる。 ・今後の課題、改善に期待したい。 	A : 1 B : 4 C : 0 D : 0

前期事業計画(平成26年度～平成30年度)の総括	
平成27年度より順次支援を開始し、制度の広報を機会あるごとに継続的に実施することで事業の認知と利用の拡大を図ってきたところである。今後とも、多忙な学校司書並びに司書教諭にとって使いやすく、必要とされる支援を推進する。	

平成30年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	総合図書館の特色を生かした図書館	項目	映像資料部門の強化		
内容	図書館外施設でのアジア映画上映事業				
事業計画	総合図書館が収蔵するアジア映画の作品を、図書館以外の市の施設で上映し、フィルムの有効化を図るとともに、映像文化の普及・振興・市民サービスの促進を行います。				
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
平成30年度					
計画	事業名称:「こんにちは！ シネラです」 開催日時:平成30年12月9日(日) 会場:あじびホール(博多区下川端町)				
取組状況	事業名称:「こんにちは！ シネラです」 ・場 所……………あじびホール(博多区下川端町) ・日 時……………平成30年12月9日(日) ・入場者数……………55人/日 ・上映回数……………2回 ・上映作品……………「浄土アニヤン」(韓国映画),「クルドサック」(インドネシア映画)				

内部評価 (平成30年度)	
総合図書館外での上映は、収蔵しているアジア映画の有効化を図るとともに、映像文化の普及・振興・市民サービスの促進のため実施してきた。 シネラ(アジア映画)を遠く感じている市民の方にも、より身近な市の施設を利用してアジア映画を上映して、新たなシネラ観客を開拓するという、ある程度の広報成果をあげてきた。 平成30年度は各区市民センターでの上映ではなく、都心部にあるアジア美術館の企画展の一環として、企画内容に沿った作品の上映を同美術館内ホールで実施した。 前年度よりも観賞客数は減少したものの、アジア美術に興味を持っている新たな観客層に対して、アジア映画観賞の機会を提供することが出来たためB評価とする。	B

外部評価 (平成30年度)	
・あじびホールでのアジア映画の上映は、最適な場所である。年に何回かの上映を固定して特色を出してほしい。また、広報にも努めてほしい。 ・目標とした2回/年、100人/年に届かないのは何故か。原因を明らかにし次に進んでほしい。 ・アジア映画のアジア美術館での上映は良いコラボである。定着まで時間がかかるが継続的に忍耐強く取り組み、将来的に福岡市ならではの目玉プロジェクトにしてほしい。 ・図書館外で上映する機会を増やし通常の図書館上映の周知をするなど広報を工夫されることを望む。	A : 1 B : 4 C : 0 D : 0

前期事業計画(平成26年度～平成30年度)の総括	
総合図書館が収蔵するアジア映画の作品を館外で上映して、フィルムの有効化とアジアの映像文化の普及・振興を図ってきたが、これまでアジア映画を観たことが無かった人や、総合図書館が映画保存施設であることを知らなかった人、距離が離れていてシネラに来たことが無かった人が鑑賞したことにより、アジア映画文化の普及・振興の一助となった。 今後は、アジア映画の館外上映についての新たな手法等を模索すると共に、福岡市フィルム・アーカイヴが収蔵する地域映像等を積極的に市民に公開していく。	

平成30年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	総合図書館の特色を生かした図書館	項目	映像資料部門の強化		
内容	広報活動の強化				
事業計画	総合図書館が収蔵するアジア映画等のポスターを、1階ショーケース等において展示し、映像文化の普及・振興・市民サービスの促進を行います。				
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	ポスターの展示				
平成30年度					
計画	平成30年12月1日～24日まで開催する「インド映画特集」に併せて、当館に収蔵するインド映画の貴重な映画のポスター等を、1階ショーケースに展示する。				
取組状況	展示期間……平成30年11月30日(金)～12月26日(水) 展示内容……12月1日(土)～12月24日(月・休)まで開催した「インド映画特集」に併せて、当館に収蔵するインド映画の貴重な映画のポスター等を、1階ショーケースに展示した。				

内部評価 (平成30年度)

既に製作国にさえ現存していないような貴重な紙資料を中心に、来館者の興味を掻き立て、インド映画特集の観覧者には、インド映画に対する理解と関心をさらに深めるような展示を行った。立ち止まって、鑑賞された来館者の姿を多く見ることが出来た。	B
---	---

外部評価 (平成30年度)

<ul style="list-style-type: none"> ・タイ、マレーシア、シンガポール、インド映画と続きこれからどの国の映画が上映されるか楽しみである。また、シネラホールの前のショーケースに展示されたポスターは、興味深く見ている。 ・計画通りに実行できた。 ・取組みは非常に面白いと思う。福岡市らしさもあるがコアなファン層にいかにか情報を届けるかは、検討を続ける必要がある。 ・更なる広報の工夫と強化を望む。 	A : 3 B : 2 C : 0 D : 0
--	----------------------------------

前期事業計画(平成26年度～平成30年度)の総括

<p>毎年、映像ホール・シネラの特集企画に併せて、総合図書館が収蔵するアジア映画のポスター等の貴重な紙資料を展示してきたことにより、映画を観た人だけでなく図書館を借りに来た人にも、アジア映画のポスターを見て興味を持っていただくことが出来た。</p> <p>今後も、福岡市フィルム・アーカイヴが収蔵する映像資料、紙資料及び他の貴重な資料等について、より積極的に公開のしていく。</p>

平成30年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	総合図書館の特色を生かした図書館	項目	文書資料部門の強化		
内容	歴史的公文書のデジタルデータ化及びシステム化				
事業計画	総合図書館ホームページを活用し、インターネットによる情報提供の充実を図ります。 また、保存期間満了の福岡市作成の公文書のうち、歴史的公文書として残す資料の選び出しや関係課との移管協議文書作成など、収集に係る事務手続き及び検索について、システム化を図ります。 ・歴史的公文書目録検索 ・現在マイクロフィルム撮影にて複製保存している歴史的公文書の一部デジタルデータ化 ・公開できる歴史的公文書をデジタルデータにて公開 ・歴史的公文書管理システムの構築 ・公文書検索のシステム化				
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	データ化 目録掲載	デジタルデータ化検討		デジタルデータ化	
	システム化 業務分析	協議	システム検討		公開 運用
平成30年度					
計画	<ul style="list-style-type: none"> ○引き続き、デジタルデータ掲載に向けたホームページの改修について館内で検討を行う。 ○歴史的公文書に係る展示をデジタルデータ化した資料を活用して定期的に行い、公文書館活動について普及啓発を図る。 ○引き続き歴史的公文書管理システム等について関係部局と協議検討を行う。 				
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○広報写真等の選定を行い、デジタルデータ掲載に向けたホームページの改修について検討を行った。 ○「昭和の福岡市再開発事業」をテーマに歴史的公文書の展示を行い、一部資料をデジタルデータ化して展示(PCで閲覧等)するとともに、展示概要のしおりをホームページで公開した。(入場者数計715人) 				

内部評価 (平成30年度)	
<ul style="list-style-type: none"> ○デジタルデータ化及びその提供のあり方については、今後も調査・検討が必要。 ○歴史的公文書展示の入場者も増加している。デジタルデータ化した資料の展示により、内容充実及び理解促進が図られ、当館の公文書機能についてアピールできた。 ○歴史的公文書の移管等については、関係部局からの移管が進んでおらず、引き続き協議を行う必要がある。以上のことから、B評価とする。 	B

外部評価 (平成30年度)	
<ul style="list-style-type: none"> ・着実に引き続き関係部局と協議を進めてほしい。 ・公文書の移管を円滑に行うためには、条例で公文書について総合図書館に移管することを進めないと抜本的解決には至らない。 ・写真や地図などデジタルデータ化で利活用が広がるようなものを優先的に取り組んでほしい。 ・公文書館としての役割を果たす取組みを継続していることを評価する。歴史的公文書への取組みも協議しながら進めてほしい。 	A : 0 B : 4 C : 1 D : 0

前期事業計画(平成26年度～平成30年度)の総括	
総合図書館ホームページに公文書目録をPDFファイルで掲載し、公文書の検索機能を強化した。また、デジタルデータ化した歴史的公文書等を活用した展示により、公文書館機能の理解促進を図ることができた。しかし、歴史的公文書管理システムの構築については総務企画局における文書管理システムの更新に併せて検討することとしていたが、システムの更新の予定がないため検討には至らなかった。今後も、デジタルデータ化及びその提供のあり方について、調査・検討していく。	

平成30年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	総合図書館の特色を生かした図書館	項目	文書資料部門の強化		
内容	古文書資料・郷土資料のデジタルデータ化				
事業計画	福岡の歴史に係わる古文書資料や郷土資料等のデジタルデータを作成し、情報提供の充実を図ります。				
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	検討, 準備		試験撮影		
平成30年度					
計画	<p>○平成30年度に収集する古文書資料約2,000点を、1点ごとに整理・マイクロ撮影し、『古文書資料目録24』に掲載する事業と並行して、一部をデジタル撮影する。</p> <p>○目録およびデジタル化した資料画像を館内に設置した端末で公開する方法を検討するとともに、HP上で公開するためのHPの改修について、さらに検討する。</p>				
取組状況	<p>○平成30年度に収集した古文書資料2,406点を、1点ごとに整理・マイクロ撮影し、『古文書資料目録24』に掲載した。</p> <p>○古文書資料・郷土資料のデジタル画像1,428コマを作成し、一部を館内の端末およびHP上で公開したが、HPの改修については進展していない。</p>				
内部評価 (平成30年度)					
マイクロ撮影は計画通りに作成することができた。デジタル画像は予定を大幅に超える数量を作成することができたが、公開はごく一部にとどまっているため、B評価とする。					B
外部評価 (平成30年度)					
<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル画像の公開に向けて協議等着実に進めてほしい。 ・デジタル画像を公開するのに、総合図書館のサーバーの容量は足りるのか。 ・デジタルデータ化はコスト面で取組みを進めていくことが難しいと考えるがデジタルデータ化した後の利活用シーンを考え、優先度を定めつつ利用しやすい形で取組みを進めてほしい。 ・情報提供の実現のため経費の確保を望む。 ・コストの問題はあるが、データ化して公開に期待したい。 					A : 0 B : 4 C : 1 D : 0
前期事業計画(平成26年度～平成30年度)の総括					
平成26・27年度に先進館視察や研修会受講等により準備を整え、平成28年度より3か年で実際にデジタル画像を作成し、その一部を館内端末およびHP上で公開した。予定以上の数量の画像を作成することができ、公開も利用者からは好意的な評価を得た。しかし、HP改修を検討することで全画像の公開を目指したが、今後はクラウドシステムの活用をふくむ多様な公開方法を検討する。					

平成30年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	総合図書館の特色を生かした図書館	項目	文書資料部門の強化		
内容	福岡市文学館の利用拡大				
事業計画	市民に認知され、利用しやすい文学館となるよう、福岡市文学館サテライトである赤煉瓦文化館との連携を図りながら、事業充実及び広報強化により、文学館全体の利用拡大を図ります。				
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	企画展の開催				
広報強化					
平成30年度					
計画	<ul style="list-style-type: none"> ○文学館事業として以下の事業を実施する。 <ul style="list-style-type: none"> ・企画展 11月～12月 テーマ「矢山 哲治」, 第一会場:総合図書館ギャラリー, 第二会場: 赤煉瓦文化館 ・企画展開催期間以外は、常設展示を開設 ・赤煉瓦夜話、読書講座等の文学講座、企画展関連講演会 ○引き続き「福岡 ミュージアムウィーク」に参加し、文学館の認知度アップを図る。 				
取組状況	<ul style="list-style-type: none"> ○文学館事業として以下の事業を実施した。 <ul style="list-style-type: none"> ・企画展「青春の光芒－矢山哲治と文芸雑誌「こころ」」H30.11.9(金)～12.16(日) 入場者数764人 (平成30年度は、第一会場のみで実施) ・ギャラリー常設展「児童文学と福岡」、赤煉瓦文化館常設展示「福岡ゆかりの文学者-久保猪之吉・中島哀浪、柳原白蓮」 ・赤煉瓦夜話、企画展関連講演会、共催事業の文学講座 9回 参加者数260人 ○「福岡ミュージアムウィーク」に参加して、ギャラリー及び赤煉瓦文化館でギャラリートークを開催し文学館の認知度アップを図った。参加者数8人 				

内部評価 (平成30年度)	
<ul style="list-style-type: none"> ○「福岡ミュージアムウィーク」に参加し、認知度アップを図ることができた。 ○企画展入場者数、文学講座参加者、図録販売数は昨年度より減少した。(H29:4,329人, 733人, 669冊→H30:764人, 260人, 278冊) ○企画展について、新聞社に働きかけを行い、1社で紹介記事が掲載された。以上のことからB評価とする。 	B

外部評価 (平成30年度)	
<ul style="list-style-type: none"> ・展示が変わり映えせず興味のないテーマは一巡するだけである。広報も足りていない。 ・企画展のプレスリリースで1社とは厳しい。新聞社以外のテレビ局、ラジオ局にもプレスリリースは、行わなかったのか。 ・福岡市並びに福岡県といった郷土ゆかりの文学者や作家の紹介を引き続き進めてシビックプライドが高まるような取組みに昇華してほしい。 ・利用拡大のため赤煉瓦夜話のような魅力あるイベントの企画を望む。 	A : 0 B : 5 C : 0 D : 0

前期事業計画(平成26年度～平成30年度)の総括	
<p>新聞・テレビなどを活用した広報により、文学館の認知度向上に努めた。福岡ゆかりの文学者等について紹介する企画展等を開催したが、テーマにより参加者に増減が生じた。今後は、利用しやすい文学館となるよう事業の充実及び情報提供を強化する。</p>	

平成30年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	効率的で効果的な図書館運営	項目	図書館運営の強化		
内容	運営方法(民間活力の導入)の検討				
事業計画	図書館サービスの向上を図るため、指定管理者制度などの民間活力の導入を含めた運営方法について検討します。				
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	検討・準備	公募・選定	総合(建物管理のみ)		
			東(運営)		
平成30年度					
計画	総合図書館、東図書館それぞれの平成30年度指定管理業務についてモニタリングを実施するとともに、平成29年度の業務実施について、選定・評価委員会の意見も聞き、評価を行う。				
取組状況	総合図書館、東図書館それぞれの平成30年度指定管理業務について年4回のモニタリングを実施するとともに、平成29年度の業務実施について、選定・評価委員会の意見を踏まえ、評価を行った。				

内部評価 (平成30年度)	
総合図書館、東図書館ともに指定管理業務において、良好に実施されたためA評価とする。	A

外部評価 (平成30年度)	
<ul style="list-style-type: none"> ・東図書館は、他の分館と雰囲気が違い若い男女の利用が目立つ。指定管理者制度が成功しているのだと思う。固定観念にとらわれず発想の転換、アイデアを他の分館も求めてほしい。 ・利用者アンケートで「警備員が最悪である」と意見があるので指定管理業務の指導も行ってほしい。 ・指定管理者制度でうまくいっている取組みを他の分館などへも波及させる取組みを継続してほしい。 ・指定管理者制度の導入は評価が分かれているところである。慎重に進めてほしい。 	A : 4 B : 1 C : 0 D : 0

前期事業計画(平成26年度～平成30年度)の総括	
計画どおり平成28年度から総合図書館においては、建物の維持管理を東図書館においては、図書館運営を指定管理者制度による運営を実施している。この2館の運営については、毎年4回のモニタリングを実施し、内部評価を行うとともに年1回の選定・評価委員会の外部評価を受けている。今後は、両館の成果を検証し、図書館の運営方法を検討する。	

平成30年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	効率的で効果的な図書館運営	項目	図書館運営の強化		
内容	図書館ボランティアとの共働の推進				
事業計画	図書館サービスの充実と市民活動の場の提供を図るため、図書館ボランティアとの共働を推進します。 ・図書館ボランティアの養成 ・学生のインターンシップの導入				
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	検討・準備		ボランティア・インターンシップ		
平成30年度					
計画	新規ボランティアの受け入れ及び福岡市インターンシップ研修生の受け入れも継続して行う。				
取組状況	書架整理や図書資料の修繕等を行うボランティア23人の新規受け入れを行った。 また、福岡市インターンシップ研修生1名の受け入れを行った。				

内部評価 (平成30年度)

予定どおり実施しているためA評価とする。	A
----------------------	---


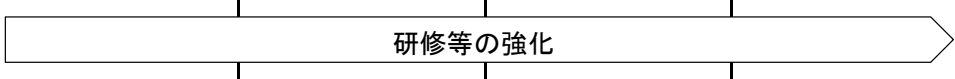
外部評価 (平成30年度)

<ul style="list-style-type: none"> ・福岡市インターンシップ研修生を増やすための広報をしてほしい。ボランティアによる本の修理は、とても役に立っていた。 ・単なるボランティア募集ではなく、業務を明示しながら募集する方法が必要である。その為には、総合図書館でボランティアに担当してもらう業務の明確性が求められる。 ・ボランティアの方々の協力を仰ぎ共働を進めていくことは大切であるが経費削減のためのものという捉え方はすべきでない。あくまでも図書館や図書が好きで共感して個々の方々の得意な領域、興味のある活動などで共働していくという考え方や姿勢で取り組んでいくべきである。 ・イベント協力、書架整理、ガーデニングなど職種を選べるボランティア募集を行うことを望む。研修を兼ねると更に登録者も増えるのではないかと考える。 	A : 4 B : 1 C : 0 D : 0
---	----------------------------------

前期事業計画(平成26年度～平成30年度)の総括

平成28年～30年度で新規のボランティアを80名受け入れた。年々登録者が減少しており受入方法を検討する必要がある。また、福岡市インターンシップ研修生の受け入れは、今後も積極的に行っていく。
--

平成30年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	効率的で効果的な図書館運営	項目	図書館運営の強化		
内容	職員の育成及び技術向上				
事業計画	利用者が心地よいと感じる図書館となるよう、図書館職員の接遇研修等を強化します。 併せて、図書館職員として専門知識や技術の向上を目指し、各種研修を実施していくことで、図書館サービスの向上と充実を図ります。				
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
					
平成30年度					
計画	全体研修については、利用者サービスの向上を目的に、福岡市職員、図書館職員としての資質を高める研修を、年間を通して計画的に実施していく。 専門研修については、研究集会や県立図書館の研修等へ職員を派遣するとともに、高齢者問題や子育て等の市民生活に密着したテーマに関する研修を引き続き実施する。また、レファレンスや資料保存、著作権等に関する国立国会図書館のインターネットによる遠隔研修の受講を奨励し、各分館を含めた職員の専門知識習得に努める。				
取組状況	全体研修については、接遇・クレームや業務改善等の職員の資質を高める研修の実施や、避難訓練等の防災研修など5回実施した。 専門研修については、研究集会や県立図書館の研修等へ職員を派遣(延46人)するとともに、総合図書館で開催した図書館地区別研修に多くの読書相談員が参加(延56人)した。 また、著作権や資料保存等に関する国立国会図書館のインターネットによる遠隔研修を取り入れ、各分館を含めた職員の専門知識習得を奨励した。				

内部評価 (平成30年度)	
予定どおり実施しているためA評価とする。	A

外部評価 (平成30年度)	
<ul style="list-style-type: none"> ・取組み状況からみて教育の機会が与えられている。スキルアップは、市民ニーズに答えるためには欠かせないので研修の継続を望む。 ・課題解決の為に専門的な研修に関する内容が欠けているように見受けられる。 ・職員のレベル向上への取組みは重要であるが、同時に待遇面でのレベルアップも並行して取り組んでいく必要がある。 ・専門的な研修の強化を望む。 	A : 3 B : 2 C : 0 D : 0

前期事業計画(平成26年度～平成30年度)の総括
全体研修については、職員の資質向上に努めてきた。今後も利用者サービスの向上を目指し取り組む。専門研修については、研究集会や県立図書館の研修等へ職員を派遣するとともに、現代的課題である高齢者問題や子育て等の市民生活に密着したテーマに関する研修を実施した。また、国立国会図書館のインターネットによる遠隔研修の受講を奨励し、各分館を含めた職員の専門知識習得に努めた。今後も、利用者サービスの向上を目指し推進する。

平成30年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	効率的で効果的な図書館運営	項目	図書館運営の強化		
内容	施設の有効活用などによる財源確保				
事業計画	駐車場の有料化など、既存施設の有効活用を図ることで、財源確保につながる取り組みを進めます。また、広告収入やスポンサー制度、寄付などによる財源の確保に努めます。				
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
平成30年度					
計画	ホームページや広報紙の広告を継続して獲得するとともに、駐車場の適切な運営や寄付金制度のPRに努めていく。また、その他財源確保における手法等について、引き続き検討を進める。				
取組状況	図書館ホームページのバナー広告や、広報紙製作に必要な広告を計画どおり獲得した他、総合図書館駐車場を図書館利用者以外にも有料開放することで年間で約500万円の収入を確保するとともに、「ふくおか応援寄付」制度についてホームページや図書館本館、分館でのポスター掲示やパンフレットの配布等によりPRを行い、図書購入のための寄付金15万円をいただいた。				

内部評価 (平成30年度)	
計画どおり、財源確保につながる取り組みを進めたが、その他財源確保の手法について検討途中のためB評価とする。	B

外部評価 (平成30年度)	
<ul style="list-style-type: none"> ・財源確保に努力されている。寄付金が増えるよう図書館の意義など周知していけば良いのではないか。 ・新刊雑誌カバー広告も粘り強く開拓してほしい。足ふきマットなどの他市の広告例がある。 ・財源確保は困難な課題であるが、地道に継続的に進める必要がある。他部局の活動と連携することで予算が拡大したことと同じ効果を得られるような取組みなど工夫して見出していくこともあわせて検討してほしい。 ・更なる財源確保に取り組んでほしい。 	A : 1 B : 4 C : 0 D : 0

前期事業計画(平成26年度～平成30年度)の総括
ホームページのバナー広告等をはじめ、総合図書館駐車場を図書館利用者以外にも有料開放して収入を確保した。雑誌スポンサー制度は継続性観点から実施を中止した。今後も新たな収入確保を検討する。

平成30年度 福岡市総合図書館 運営に関する評価調書(事業別)

図書館像	効率的で効果的な図書館運営	項目	図書館運営の強化		
内容	情報発信の推進				
事業計画	子どもから高齢者まで分かりやすく、使いやすいホームページを目指し、充実を図ります。また、積極的な情報発信としてRSS機能の追加やメールマガジンの配信等を実施し、図書館から積極的な情報発信を行い、図書館利用が少ない層への利用促進を図ります。				
	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
平成30年度					
計画	メールマガジンの配信及びSNSでの情報発信を継続して行う。				
取組状況	月に1回メールマガジンを配信している。 媒体ごとの登録者増加率(前年度比)は、メールマガジン:21%増(285件→344件)、フェイスブック:29%増(148件→191件)、ツイッター:72%増(249件→429件)、LINE:38%増(2061件→2837件)となっている。				

内部評価 (平成30年度)	
計画どおり実施し、各媒体の登録者数も増加しているためA評価とする。	A

外部評価 (平成30年度)	
<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ以外は見ていないが、登録者の伸びから情報発信はできていると感じた。 ・インスタグラムの発信に取り組んでほしい。 ・SNSは情報発信の重要なツールなので、これまで以上に活用を進めてほしい。 ・取組みの継続を望む。 	A : 3 B : 2 C : 0 D : 0

前期事業計画(平成26年度～平成30年度)の総括
平成29年にホームページをリニューアルし、見やすさや使いやすさを改善した。フェイスブック・ツイッター・LINEを開設した。今後は、更なるSNSの活用を検討する。

福岡市総合図書館新ビジョン
前期事業計画実施報告

(平成26年度～平成30年度)

令和元年8月
福岡市教育委員会

1 前期事業計画の趣旨

平成8年6月福岡市総合図書館開館以来、少子高齢化や高度情報化、国際化の進展など社会状況が大きく変化しています。このような状況の中で、市民ニーズの高度化、多様化という新たな環境変化に対応していくため、今求められる図書館の役割を踏まえ、これから目指すべき図書館像を定める「福岡市総合図書館新ビジョン」を平成26年6月に策定しました。

この「福岡市総合図書館新ビジョン」は平成26年度を始期とする10年間を計画期間としており、新ビジョン推進のため、重点的に取り組む具体的な施策・事業について5年ごとにその事業計画を作成し、成果指標を定めて計画的に事業を実施していくものです。

2 進行管理と評価

新ビジョンを着実に推進していくために、年度ごとに図書館サービスや業務についての評価を行い、進行管理を行いました。

年度ごとに図書館サービスや業務について、アンケートを実施し、内部評価を行い、さらに、内部評価について意見を聴くため、「福岡市図書館評価委員会」を設置して、市民や有識者の視点を取り入れた外部評価を行い、結果を公表しました。その評価内容に応じて、図書館サービスの改善を図ってきました。

3 前期事業計画の振り返り

福岡市総合図書館では、「福岡市総合図書館新ビジョン」に掲げる「目指す図書館像」を達成するため、前期事業計画に基づき施策・事業を推進してまいりました。その結果、潤いややすらぎの場の創出や一部の図書館ではありますが開館時間の延長、また、地域読書活動への支援を目的とした団体貸出制度の拡充など一定の成果を得られました。

一方では、急速なIoT化の発展や市民意識の変化、社会情勢の変化等で図書館利用者が年々減少傾向であり、改めて図書館に求められる役割と機能を考えていく必要があります。

(1) 前期事業計画の成果

①学校図書館支援センターの立ち上げ

各学校が学校図書館を効果的に運用できるよう、総合図書館内に学校図書館支援センターを開設し、支援を開始。

②団体貸出制度の拡充

地域文庫や学校、高齢者施設等への団体貸出サービスを充実。

344団体(2013年度) → 390団体(2018年度)

③図書館利用時間の拡大

総合図書館及び東図書館において開館時間の延長を実施。

(東図書館においては休館日も見直し)

④貸出・返却拠点の新設(4拠点)

貸出・返却拠点：福岡市科学館

返却拠点：木の葉モール橋本，ふくふくプラザ，九州がんセンター

⑤図書館イベントの充実

・子ども向けのイベント(おはなし会など)に加え，大人向けイベント(各種講演会・講座等)，アジア映画の館外上映などを実施。ヤングアダルト(中高生)向けのイベント(TRPGなど)を実施。

・市民に関心が高い医療に関する講演会や企業，経営相談会の開催など課題解決型支援を充実。

福岡市総合図書館新ビジョン 基本理念

市民がくつろぎ，本や人と楽しくふれあえる
新たな学び・情報・交流の拠点となる図書館

内容

利用者の高度化・多様化するニーズに対応できる資料・情報を提供する生涯学習施設として，また，内部空間だけでなく外部空間も含めて，快適な空間を最大限に活用することにより，これまで図書館を利用したことのない人なども集う場を創出し，多くの市民がくつろぎ，楽しさを共有できる新たな情報・交流の拠点となる図書館を目指します。

成 果 指 標

図書館利用者における図書館サービスの満足度

【現在】 75.5% → 【平成 30 年度】 85% → 【平成 35 年度】 90%

○目標数値

【平成 25 年度】

- ・貸出利用者数 1, 291 千人
- ・個人貸出冊数 4, 633 千冊
- ・入館者数 ー 千人
- ・新規登録者数 30 千人



【平成 30 年度】

- ・貸出利用者数 1, 400 千人
- ・個人貸出冊数 5, 200 千冊
- ・入館者数 ー 千人
- ・新規登録者数 45 千人

○実績数値

【平成 30 年度】

- ・貸出利用者数 1, 214 千人
- ・個人貸出冊数 4, 109 千冊
- ・入館者数 ー 千人
- ・新規登録者数 25 千人

事業計画（平成26年度～平成30年度）

（1）誰もが楽しめる魅力ある図書館

	部門	運営・図書														
項目	内容															
図書資料の貸出・返却拠点の新設	<p>①分館の新設 地域交流センター等の整備検討に併せて、新たな分館の新設を検討します。</p> <p>②貸出・返却拠点等の新設 図書館サービスが行き届かない地域に対して、交通の便の良い公共施設などに図書の貸出・返却拠点の新設を推進し、図書館利用者の利便性の向上を図ります。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; margin-top: 10px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>H25</th> <th>H30</th> <th>H30(実績)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>貸出拠点数</td> <td>13 地点</td> <td>15 地点</td> <td>13 地点</td> </tr> <tr> <td>返却拠点数</td> <td>21 地点</td> <td>25 地点</td> <td>24 地点</td> </tr> </tbody> </table>					H25	H30	H30(実績)	貸出拠点数	13 地点	15 地点	13 地点	返却拠点数	21 地点	25 地点	24 地点
	H25	H30	H30(実績)													
貸出拠点数	13 地点	15 地点	13 地点													
返却拠点数	21 地点	25 地点	24 地点													

○スケジュール

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
分館	検討, 協議				
貸出・返却拠点等	検討, 協議				
	◇設置		◇設置		

※貸出・返却拠点については、天神地区及び博多駅地区を検討中。

※返却拠点（ブックポスト）については、平成26年度に「木の葉モール（西区）」に設置済。平成28年度は南区南部（マスタープランにおける地域拠点）を検討中。

前期事業計画の総括

- ①地域交流センターの整備に併せた図書館分館の新設に時期を逸さず、取り組むことが出来た。協議を進める中で図書館の面積や配置場所等の確保に最大限努力してきた。今後は、東図書館の課題等を踏まえ検討する。
- ②平成25年度から、返却拠点3地点(木の葉モール橋本、ふくふくプラザ、九州がんセンター)を新設した。また、少年科学文化会館の貸出・返却拠点を同館の閉館に伴い平成27年に廃止したが、平成29年開館の福岡市科学館に新たに拠点を設置した。今後も利用者の利便性の向上を考慮し貸出・返却拠点の設置を推進する。

		部門	運営・図書・文書・映像		
項目	内容				
利用時間の拡大 (開館時間, 休館日の見直し)	休館日及び開館時間の見直しを行い, 図書館を利用できる時間を拡大することにより, 図書館利用者の利便性の向上を図ります。				
○スケジュール					
	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
休館日	検討(段階的に実施)				
	◇全館		◇東		
開館時間	検討(段階的に実施)				
			◇総合, 東		
<p>※平成 26 年度は, 図書特別整理期間を短縮。</p> <p>※平成 28 年度は, 東図書館及び総合図書館において, 指定管理者制度の導入に併せて, 開館時間を拡大。</p> <p>※休館日及び利用時間の拡大については, 継続的に検討。</p>					

前期事業計画の総括
<p>総合図書館と東図書館において, 開館時間の延長や東図書館の休館日の変更も行った。東図書館は, 利用時間延長等で利用者の利便性は向上したと思われるが, 立地が良いため利用時間延長のためだけとは分析できない。今後は, 各分館ごとに立地や地域性も考慮して検討する。</p>

		部門	図書		
項 目	内 容				
図書館イベントの充実	成人を対象とした読書会等を実施し、読書の普及や図書館の活用促進を図ります。				
		H25	H30	H30（実績）	
	イベント回数	0回/年	3回/年	1,067回/年	
	参加者数	0人/年	150人/年	24,482人/年	
*H30の実績は、大人・子どもを対象としたイベントの総数					
○スケジュール					
	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
イベント		計画	大人向けイベントの実施		
(例) 高齢者を対象にした読書会、図書館の利用方法の講習会、子育て・介護等の講演会など					

前期事業計画の総括
総合図書館で、子ども向けのおはなし会や体験講座、大人向けの講座など、様々な幅広い層に向けイベントを実施した。また、分館においては、地域の特色を生かしたテーマや独自の視点による多様なイベントを実施した。今後も、幅広い層に向けたイベントを推進する。

		部門		運営・図書・文書・映像	
項 目		内 容			
快適な空間づくり		<p>①やすらぎと交流の場づくり 誰もが気軽に立ち寄り、思い思いの時間を過ごし、くつろぎ楽しむ、潤いややすらぎの場となるよう、エントランスホールや正面玄関前広場等を活用し、快適な空間づくりを行います。 また、広場等を活用したイベントを実施していきます。</p> <p>②館内レイアウトの変更 文学資料エリアのリニューアル、ビデオライブラリーの見直し及びカフェスペースの設置などを行い、図書館の魅力の拡大を図ります。</p>			
○スケジュール					
	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
やすらぎと交流の場			◇エントランス、広場		
		検討（段階的に実施）			
館内レイアウト			検討	◇文学資料エリア、ビデオライブラリー、カフェスペース	
<p>(例) あおぞらおはなし会、広場での古本市やマルシェ（市場）の開催、カフェスペースの設置、観光情報コーナーの設置など</p>					

前期事業計画の総括	
<p>①図書館への来館、利用を促すため様々なイベントを開催するとともに軽い談話ができるコーナーづくりなど、場の創出を行ってきた。今後も積極的に図書館利用の促進に向けた取り組みを推進していく。</p> <p>②文学資料エリアやビデオライブラリーの大規模な見直しには至らなかったが、談話ができるカフェスペースの新設など一定の魅力向上を図ることが出来た。今後は、平成29年度に策定した長期保全計画に基づきレイアウトの変更等を検討する。</p>	

(2) さまざまな情報を求める市民に応える図書館

項 目	部門			運営・図書		
	内 容					
図書館サービスの充実	①資料収集の充実 公共図書館としての役割を発揮するため、図書資料の収集方針の見直しを行い、計画的な資料収集に努めるとともに、電子書籍の取り扱いについて検討します。 分館においては、地域の実情にあわせて特色を持たせた資料収集を行っていきます。					
	②レファレンス（相談）サービスの充実 電子メールによるレファレンスサービスを実施し、利用者への図書館サービスの充実と利便性の向上を図ります。					
		H25	H30	H30（実績）		
	レファレンス （電子メール）	0 件／年	1,500 件／年	88 件／年		
	③情報提供の充実 ビジネス支援や子育て支援などの課題解決に対して、本市関係部局及び国・県等関係機関と連携を図りながら、図書館資料を活用した展示等の情報提供などを行っていきます。					
		H25	H30	H30（実績）		
	市長部局と 連携した展示	0 件／年	4 件／年	51 件／年		
	④ホームページの複写サービス 福岡市及び国等のホームページに掲載されたインターネット情報を利用者の調査研究に役立てるため、同資料を収集し、複写サービスを提供します。					
	⑤無線 LAN 環境の整備 利用者の調査・研究の補助として、個人持ち込みの端末機器（ノートパソコン、タブレット、スマートフォン等）が利用できるよう、公衆無線 LAN「Fukuoka City Wi-Fi」によるインターネット環境を整備し、利用者の利便性の向上を図ります。なお、分館については、施設管理者と検討を進めます。					
		H25	H30	H30（実績）		
設置館数	0 館	8 館	1 館			
アクセス数	0 回／月	11,000 回／月	16,356 回／月			

○スケジュール

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
資料収集	収集方針改定				
レファレンス (電子メール)	検討	システム対応	電子メールによるレファレンスサービス		
情報提供	計画	ビジネス支援等の情報提供			
複写サービス	試行	ホームページ等の複写サービス			
無線 LAN	検討, 協議				
	◇総合		◇分館 (1館)	◇分館 (3館)	◇分館 (3館)

前期事業計画の総括

- ①総合図書館および分館の収集方針を見直し、より市民ニーズの高い本を選書するようになった。また、分館においては、地域の実情に合わせた特色のある資料収集を行なった。今後も収集方針に沿って進めていく。また、電子書籍の導入については、提供可能な資料の量と経費を勘案しながら継続して検討する。
- ②平成28年度途中からのメールレファレンスを開始し、当初は伸び悩んだが着実に利用件数が増えており、レファレンスの新たな在り方として定着してきた。今後もメールレファレンスを継続するとともに、レファレンスサービスのさらなる充実を図っていく。
- ③起業・経営相談、がんの講演会、関係部局との連携展示などを着実に実施できた。今後も、課題解決型支援の充実に取り組んでいく。
- ④レファレンスにおいて、参考資料の一つとして複写を行ない、利用者に手渡す仕組みを確立したため、後期の目標とはしない。
- ⑤総合図書館においては、「Fukuoka City Wi-Fi」を設置し利用に供しているが分館については市民センターや地域交流センターへの整備がなされていないことから未導入である。今後は、各分館での利用者ニーズと対費用効果を勘案し、導入について検討は行うが後期の目標設定はしない。

		部門	図書		
項 目	内 容				
地域読書活動への支援	①団体貸出先の拡大 図書館利用が困難である施設入所者等への団体貸出を実施し、団体貸出サービスの充実を図ります。				
		H25	H30	H30（実績）	
	団体数	344 団体	390 団体	396 団体	
	配本冊数	236,455 冊	244,000 冊	212,506 冊	
	②公民館等の読書活動への支援 地域において読書活動を行っている公民館や留守家庭子ども会等を訪問して、図書コーナー（室）の運営や環境整備への助言や支援等を行います。				
○スケジュール					
	26 年度	27 年度	28 年度	29 年度	30 年度
団体貸出	検討	団体貸出先の拡大			
公民館等への支援		協議	公民館等への支援		
※団体貸出先については、高齢者施設や病院などに広報活動を行い、貸出先を拡充。					

前期事業計画の総括
①登録団体数は継続して増加している。今後も安定して事業を継続していくため、制度周知に努めるとともに蔵書の充実を図るなど、重点的に取り組んでいく。
②公民館への支援を強化するため、公民館と地域文庫をつなぐ事業に取り組んできたが、今後は地域の読書活動団体への訪問支援やニーズの高い講座開催など、新たな支援にも段階的に取り組んでいく。

		部門	図書		
項目	内容				
市関連施設の 図書室の相互 協力	①議会図書室との連携 議会図書室と連携し、議会における政策、立案等の調査・研究を支援します。				
		H25	H30	H30（実績）	
	貸出冊数	0冊	40冊/年	12冊/年	
	②市施設の図書室との相互協力 少年科学文化会館及びふくふくプラザなどとの連携、相互協力化を検討します。				
○スケジュール					
	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
議会図書室との連携	協議	議会図書室との連携			
市施設との相互協力		検討、協議			連携

前期事業計画の総括	
①	平成 26 年度から開始したが利用者は限定的である。後期は、引き続き広報に努めるが目標の設定はしない。
②	平成 27 年度から、ふくふくプラザで図書資料の返却を開始。また、少年科学文化会館の閉館に伴い廃止予定であった貸出・返却拠点としての機能を、福岡市科学館に引き継いで実施した。また、連携を行っていない市施設の図書室との相互協力化については検討を継続した。今後も、市関連施設との連携について検討する。

(3) 子どもと本をつないで豊かな心を育む図書館

	部門	図書		
項 目	内 容			
子どもへの読書普及	<p>①モデル児童図書目録の配布 子どもたちやその保護者等が子どもの本を選ぶ目安として、各年齢層に応じた本を紹介したリストを配布し、子どもの読書推進に寄与します。</p> <p>②新一年生への貸出カードの付与 新一年生のうち図書館の貸出カードを所有していない児童を対象として、貸出カードを付与することにより、読書の普及等を図ります。</p>			
		H25	H30	H30 (実績)
	登録者数 (小1)	3,069人	14,000人	-
	<p>③ヤングアダルト層（12歳～18歳）への広報活動の強化 総合図書館内にヤングアダルトコーナーを設置し、推薦図書の展示等を実施するとともに、ヤングアダルト向けの推薦図書に関するリストを作成・配布することで、読書普及のための広報を実施します。</p> <p>④読書活動ボランティア講座の強化 読書活動ボランティア講座を開催し、学校や地域等幅広いボランティアを養成して、地域の読書活動の推進に寄与します。</p>			

○スケジュール

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
新一年生		検討, 協議	貸出カードの付与		
ヤングアダルト	継続的に広報の強化				
モデル児童 図書目録	幼児用作成	◇配布 小学生用計画	初級(1,2年生) 検討, 協議	作成	◇配布 中級(3,4年生) 検討, 協議
読書ボランティア 講座	準備	初心者向け講座の実施			
		準備	経験者向け講座の実施		

※モデル児童図書目録については、中級（3・4年生用）は平成33年度、
上級（5・6年生）は平成36年度に配布予定。

前期事業計画の総括

- ①モデル児童図書目録については、長年にわたり大きな役割を果たしてきたが、子どもが興味を抱く様々な分野の比較的新しい本をタイムリーに届ける為に、制約のある冊子形態を毎年発行するリーフレット形態に改め、従来の目録と合わせて紹介していくよう見直しを実施した。今後も各年齢層に応じた本を紹介したリストを配布する。
- ②新一年生への貸出カードの付与については、平成27年度に検討を行い、個人情報上の観点から一律に作成配布することはできないと判断され、平成28年度に各小学校長に対し登録の手続きの案内を送付し保護者への配布を依頼したが、登録は137名に留まった。そのため、平成29年度は更にモデル校2校（小中各1校）について新1年生だけでなく全生徒への配布を試行したが、新1年生が全体で90名、モデル校の登録は僅か4名に留まった。学校を通じて保護者に案内を配布する手法では業務量と経費のわりにわずかな登録に留まり、様々な機会に呼びかける手法に転換した。今後は、1年生に限定せず貸出カードの作成を推進する。
- ③ヤングアダルト向けのイベントとして、TRPG、ボードゲーム、ビブリオバトルなどを実施し、中高生向けの読書活動推進を図った。今後も広報やイベントを充実させ、中高生に訴求する資料収集を進める。
- ④本講座は毎年募集人員いっぱいの熱心な参加者があり、さまざまな読書活動団体から、読書活動を支える人材の育成に役立っているとの評価を得ている。今後も、学校や地域等幅広いボランティアを養成し、地域の読書活動の推進に寄与する。

		部門	図書	
項 目	内 容			
学校図書館への支援	①学校図書館支援センターの設置 総合図書館内に学校図書館支援センターを設置し、学校図書館への人的・物的支援を行います。			
	<ul style="list-style-type: none"> 学校図書館への運営等に関する指導、助言 学校図書館の図書への選書や助言 			
		H25	H30	H30（実績）
	学校図書館への配本数	0冊/年	3,200冊/年	6,138冊/年
学校図書館への対応件数	0件/年	100件/年	136件/年	

○スケジュール

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
学校図書館支援センター	準備	学校図書館への支援			
		図書の配送			
		ホームページ運用			

※学校図書館支援センターについては、学校指導課と連携して、学校図書館を支援していきます。

前期事業計画の総括

- ①平成27年度より順次支援を開始し、制度の広報を機会あるごとに継続的に実施することで事業の認知と利用の拡大を図ってきたところである。今後とも、多忙な学校司書並びに司書教諭にとって使いやすく、必要とされる支援を推進する。

(4) 総合図書館の特色を生かした図書館

項目	部門		映像		
	内容				
映像資料部門の強化	①図書館外施設でのアジア映画上映事業 総合図書館が収蔵するアジア映画の作品を、図書館以外の市の施設で上映し、フィルムの有効化を図るとともに、映像文化の普及・振興・市民サービスの促進を行います。				
		H25	H30	H30(実績)	
	上映回数	0回/年	2回/年	2回/年	
	入場者数	0人/年	100人/年	55人/年	
	②広報活動の強化 総合図書館が収蔵するアジア映画等のポスターを、1階ショーケース等において展示し、映像文化の普及・振興・市民サービスの促進を行います。				
○スケジュール					
	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
上映会	検討, 協議				
	アジア映画上映				
広報活動	ポスターの展示				

前期事業計画の総括	
①	総合図書館が収蔵するアジア映画の作品を館外で上映して、フィルムの有効化とアジアの映像文化の普及・振興を図ってきたが、これまでアジア映画を観たことがなかった人や、総合図書館が映画保存施設であることを知らなかった人、距離が離れていてシネラに来たことがなかった人が鑑賞したことにより、アジア映画文化の普及・振興の一助となった。今後は、アジア映画の館外上映についての新たな手法等を模索すると共に、福岡市フィルム・アーカイヴが収蔵する地域映像等を積極的に市民に公開していく。
②	毎年、映像ホール・シネラの特集企画に併せて、総合図書館が収蔵するアジア映画のポスター等の貴重な紙資料を展示してきたことにより、映画を観た人だけでなく図書館を借りに来た人にも、アジア映画のポスターを見て興味を持っていただくことが出来た。今後も、福岡市フィルム・アーカイヴが収蔵する映像資料、紙資料及び他の貴重な資料等について、より積極的に公開していく。

項 目	部門		文書	
	内 容			
文書資料部門 の強化	<p>①歴史的公文書のデジタルデータ化及びシステム化</p> <p>総合図書館ホームページを活用し、インターネットによる情報提供の充実を図ります。</p> <p>また、保存期間満了の福岡市作成の公文書のうち、歴史的公文書として残す資料の選り出しや関係課との移管協議文書作成など、収集に係る事務手続き及び検索について、システム化を図ります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・歴史的公文書目録検索 ・現在マイクロフィルム撮影にて複製保存している歴史的公文書の一部デジタルデータ化 ・公開できる歴史的公文書をデジタルデータにて公開 ・歴史的公文書管理システムの構築 ・公文書検索のシステム化 			
		H25	H30	H30（実績）
	閲覧数	47件 (マイクロフィルム)	100件 (デジタルデータ)	0件
	<p>②文書資料・郷土資料のデジタルデータ化</p> <p>福岡の歴史に係わる古文書資料や郷土資料等のデジタルデータを作成し、情報提供の充実を図ります。</p>			
	<p>③福岡市文学館の利用拡大</p> <p>市民に認知され、利用しやすい文学館となるよう、福岡市文学館サテライトである赤煉瓦文化館との連携を図りながら、事業充実及び広報強化により、文学館全体の利用拡大を図ります。</p>			
	H25	H30	H30（実績）	
参加者	4,400人	5,000人	1,032人	

○スケジュール

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
歴史的 公文書	データ化 目録掲載	デジタルデータ化検討	デジタルデータ化		公開
	システム化 業務分析	協議	システム検討	運用	
古文書資料 ・郷土資料	検討, 準備	試験撮影			
福岡市 文学館 事業	企画展の開催				
	広報強化				

前期事業計画の総括

- ①総合図書館ホームページに公文書目録をPDFファイルで掲載し、公文書の検索機能を強化した。また、デジタルデータ化した歴史的公文書等を活用した展示により、公文書館機能の理解促進を図ることができた。しかし、歴史的公文書管理システムの構築については総務企画局における文書管理システムの更新に併せて検討することとしていたが、システムの更新の予定がないため検討には至らなかった。今後も、デジタルデータ化及びその提供のあり方について、調査・検討していく。
- ②平成26・27年度に先進館視察や研修会受講等により準備を整え、平成28年度より3か年で実際にデジタル画像を作成し、その一部を館内端末およびHP上で公開した。予定以上の数量の画像を作成することができ、公開も利用者からは好意的な評価を得た。しかし、HP改修を検討することで全画像の公開を目指したが、今後はクラウドシステムの活用をふくむ多様な公開方法を検討する。
- ③新聞・テレビなどを活用した広報により、文学館の認知度向上に努めた。福岡ゆかりの文学者等について紹介する企画展等を開催したが、テーマにより参加者に増減が生じた。今後は、利用しやすい文学館となるよう事業の充実及び情報提供を強化する。

(5) 効率的で効果的な図書館運営

	部門	運営・図書・文書・映像		
項 目	内 容			
図書館運営の強化	<p>①運営方法（民間活力の導入）の検討 図書館サービスの向上を図るため、指定管理者制度などの民間活力の導入を含めた運営方法について検討します。</p> <p>②図書館ボランティアとの共働の推進 図書館サービスの充実と市民活動の場の提供を図るため、図書館ボランティアとの共働を推進します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館ボランティアの養成 ・学生のインターンシップの導入 			
		H25	H30	H30（実績）
	活動時間	4,084 時間	4,500 時間	2,856 時間
	インターンシップ	0 人/年	10 人/年	1 人/年
	<p>③職員の育成及び技術向上 利用者が心地よいと感じる図書館となるよう、図書館職員の接遇研修等を強化します。</p> <p>併せて、図書館職員として専門知識や技術の向上を目指し、各種研修を実施していくことで、図書館サービスの向上と充実を図ります。</p> <p>④施設の有効活用などによる財源確保 駐車場の有料化など、既存施設の有効活用を図ることで、財源確保につながる取り組みを進めます。</p> <p>また、広告収入やスポンサー制度、寄付などによる財源の確保に努めます。</p>			
	H25	H30	H30（実績）	
収入額	785 千円	6,000 千円	5,136 千円	

○スケジュール

	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
運営方法(民間活力の導入)の検討	検討・準備	公募・選定	総合(建物管理のみ)		
			東(運営)		
ボランティア(インターシップ)		検討・準備	ボランティア・インターシップ		
職員の育成・技術向上	検討	研修等の強化			
財源確保		駐車場の有料化			
		その他財源の確保			

*運営方法については、下記のとおり指定管理者制度の導入を検討中。

- ・総合図書館(本館)は建物管理に関する業務
- ・東図書館は全ての分館業務(図書を選定を除く)

前期事業計画の総括

- ① 計画どおり平成28年度から総合図書館においては、建物の維持管理を東図書館においては、図書館運営を指定管理者制度による運営を実施している。この2館の運営については、毎年4回のモニタリングを実施し、内部評価を行うとともに年1回の選定・評価委員会の外部評価を受けている。今後は、両館の成果を検証し、図書館の運営方法を検討する。
- ② 平成28年～30年度で新規のボランティアを80名受け入れた。年々登録者が減少しており受入方法を検討する必要がある。また、福岡市インターシップ研修生の受け入れは、今後も積極的に行っていく。
- ③ 全体研修については、職員の資質向上に努めてきた。今後も利用者サービスの向上を目指し取り組む。専門研修については、研究集会や県立図書館の研修等へ職員を派遣するとともに、現代的課題である高齢者問題や子育て等の市民生活に密着したテーマに関する研修を実施した。また、国立国会図書館のインターネットによる遠隔研修の受講を奨励し、各分館を含めた職員の専門知識習得に努めた。今後も、利用者サービスの向上を目指し推進する。
- ④ ホームページのバナー広告等をはじめ、総合図書館駐車場を図書館利用者以外にも有料開放して収入を確保した。雑誌スポンサー制度は継続性観点から実施を中止した。今後も新たな収入確保を検討する。

		部門	運営		
項目	内容				
情報発信の推進	<p>子どもから高齢者まで分かりやすく、使いやすいホームページを目指し、充実を図ります。</p> <p>また、積極的な情報発信としてRSS機能の追加やメールマガジンの配信等を実施し、図書館から積極的な情報発信を行い、図書館利用が少ない層への利用促進を図ります。</p>				
		H25	H30	H30（実績）	
	ホームページアクセス	224万回/年	250万回/年	221万回/年	
	メールマガジン登録者数	0人	5,000人	344人	
○スケジュール					
	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
情報発信					
	<p>準備 → メールマガジンの配信</p>				

前期事業計画の総括
<p>平成29年にホームページをリニューアルし、見やすさや使いやすさを改善した。フェイスブック・ツイッター・LINEを開設した。今後は、更なるSNSの活用を検討する。</p>

福岡市総合図書館運営審議会委員名簿

任期：平成30年7月9日から令和2年7月8日まで

委嘱区分	氏名	役職名
学校教育 関係者 3名	西川 秋生	福岡市立香椎浜小学校校長
	濱地 保季	福岡市立金武中学校校長
	渡邊 由紀子	九州大学附属図書館 学術サポート課長
社会教育 関係者 3名	国広 奈穂子	福岡市七区男女共同参画 協議会代表
	萩尾 憲子	福岡市公民館館長会副会長
	上村 篤子	福岡市社会教育委員
家庭教育 関係者 1名	西村 早苗	福岡市PTA協議会会長
読書活動団体 関係者 1名	香川 純子	福岡おはなしの会代表
学識経験者 4名	高橋 昇	九州女子大学名誉教授
	白根 恵子	佐賀女子短期大学教授
	脇川 郁也	詩人，総合文芸誌「季刊 午前」編集委員
	黒岩 俊哉	九州産業大学教授
本市の住民 2名	青沼 美撫子	公募委員
	桐 研次郎	公募委員

計14名

福岡市早良南地域交流センター整備事業の概要について

1 施設概要

構造	鉄筋コンクリート造（一部鉄骨造）
階数	地上3階建
面積	敷地面積：約 10,600 m ² 建設面積：約 2,800 m ² 延床面積：約 5,200 m ²
諸室	多目的ホール（楽屋、バックヤード、ホワイエ含む）：約 1,000 m ² 大練習室（更衣室、器具庫等含む）：約 250 m ² 、小練習室：約 35 m ² 大会議室（分割可）：約 190 m ² 、小会議室：約 63 m ² 、和室：約 41 m ² 給湯室：約 74 m ² 、市民ロビー：約 487 m ² 、チャイルドルーム：約 144 m ² 図書館分館（図書館事務室含む）：約 670 m ² 、事務室：約 108 m ² 防災倉庫：約 202 m ² 、自由提案施設（介護事業所）：約 99 m ² その他諸室及び共通部分（倉庫、通路、トイレ、機械室等）
駐車場	242 台
駐輪場	80 台

2 事業スケジュール（予定）

2018年度 （平成30年度）	2019年度 （平成31年度）	2020年度 （平成32年度）	2021年度 （平成33年度）	～2036年度 （平成48年度）
●11月	●2月 落札者決定 ●2月 契約締結（議決）		●7月 施設引渡 ●11月 供用開始	
	設計・建設 契約締結日～2021年7月		維持管理 施設引渡日～2037年3月	
	← 開館準備 契約締結日～2021年11月		← 運営 供用開始日～2037年3月	
一体整備（水路暗渠化等） 設計・工事				
		四箇田公園 設計・工事	●11月	公園供用開始

3 契約価額

4,247,863,262 円

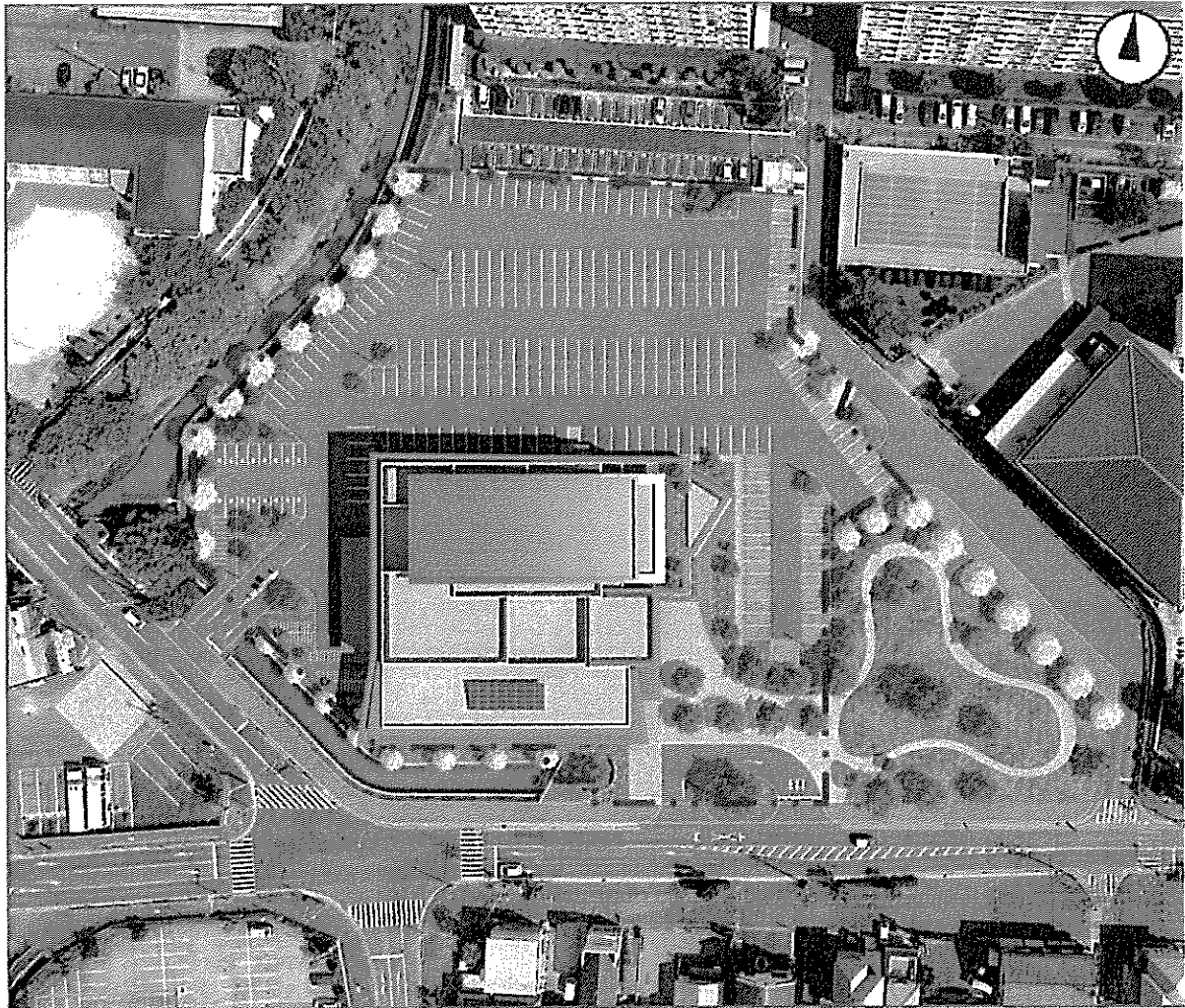
ただし、物価又は金利の変動等により増減が生じることがある。

【内訳】

- ① 施設整備費 2,785,496,274 円（うち消費税及び地方消費税相当額 196,882,488 円）
- ② 開館準備費 25,233,120 円（うち消費税及び地方消費税相当額 1,869,120 円）
- ③ 管理・運営費 1,437,133,868 円（うち消費税及び地方消費税相当額 106,454,360 円）

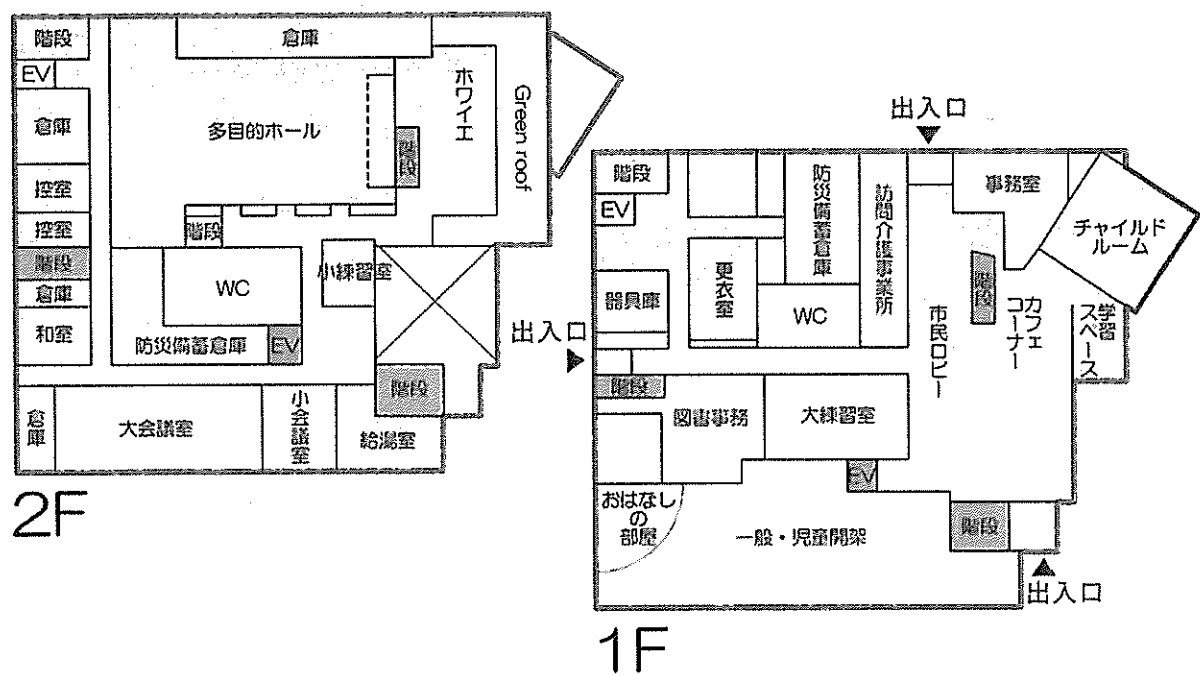
4 施設概要図

※提案時の内容であり，変更の可能性がある。四箇田公園は提案範囲外でありイメージ。



5 施設平面図

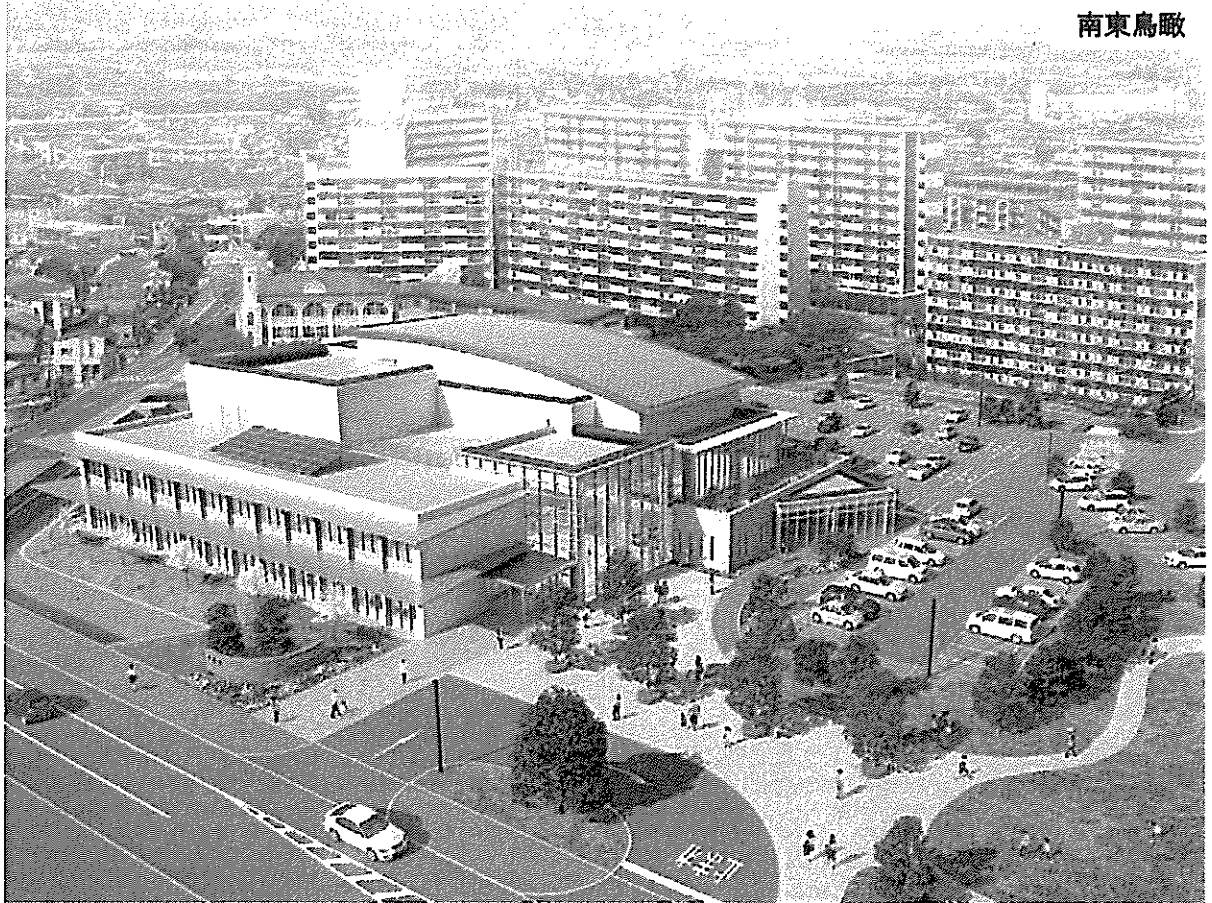
※提案時の内容であり，変更の可能性がある。



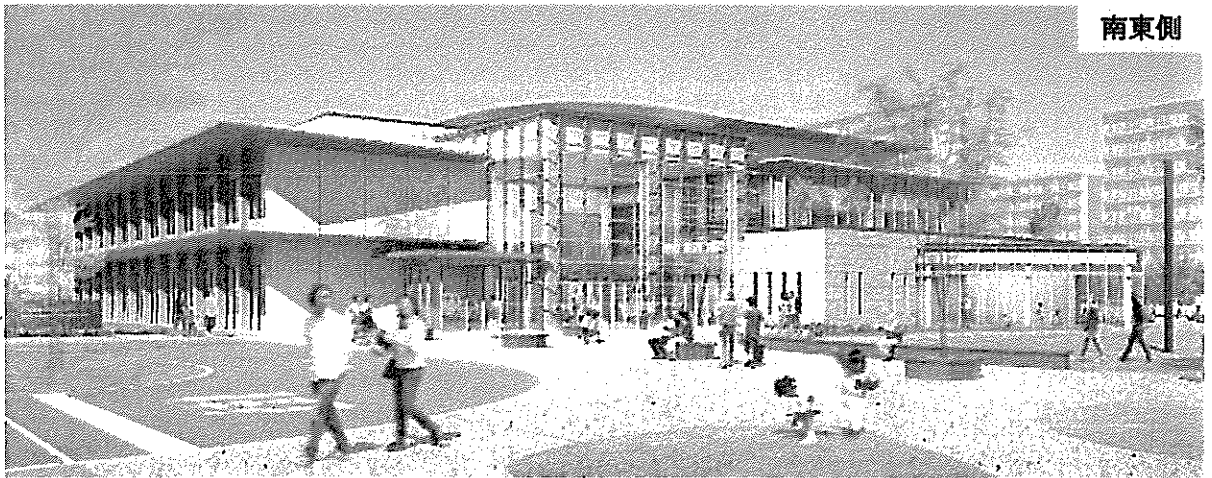
6 外観イメージ

※提案時の内容であり、変更の可能性がある。四箇田公園は提案範囲外でありイメージ。

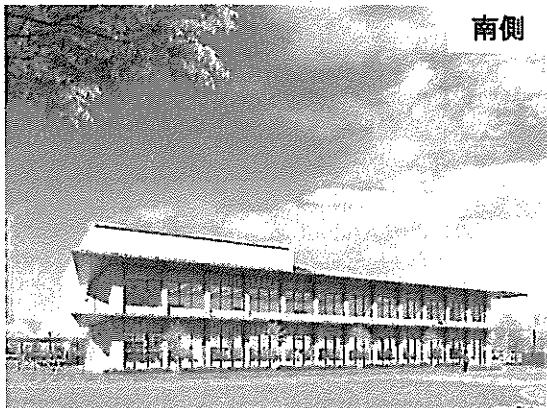
南東鳥瞰



南東側



南側



北東鳥瞰



7 内観イメージ

※提案時の内容であり、変更の可能性がある。

多目的ホール（コンサート利用）



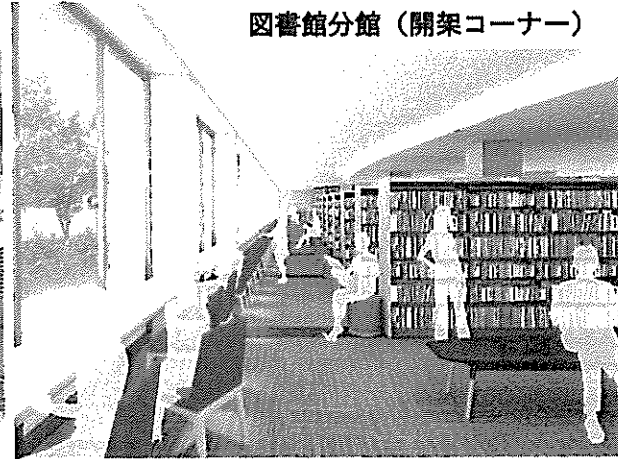
多目的ホール（平土間利用）



市民ロビー



図書館分館（開架コーナー）



位置図

